Japan Lifeline

…for patient comfort.

2025年3月期
Q1決算説明資料

決算発表・決算説明会　：2024年7月31日

日本ライフライン株式会社

東証プライム市場：7575

Unauthorized copying prohibited.
Copyright © 2024 Japan Lifeline Co., Ltd. All rights reserved.

本日の内容

Japan Lifeline

01. 2025年3月期　Q1決算報告

02. 質疑応答

Appendix 1　決算補足資料

Appendix 2　投資家様向け会社紹介資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ（https://www.jll.co.jp/investors/）からダウンロードできます。

01. 2025年3月期 Q1決算報告

02. 質疑応答

Appendix 1 決算補足資料

Appendix 2 投資家様向け会社紹介資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (https://www.jll.co.jp/investors/) からダウンロードできます。

2025/3期 Q1決算ハイライト

Japan Lifeline

	2025/3期 Q1
売上高	過去最高 14,010 百万円 (前年同期比 + 8.2%)
営業利益	過去最高 3,194 百万円 (前年同期比 + 0.6%)
当期純利益	過去最高 2,340 百万円 (前年同期比 + 0.4%)

決算ハイライト

増収増益

(売上高・営業利益・当期純利益が四半期ベースで過去最高)

外部要因
- (+) AF症例数は前年同期比10%増
- (−) 24/6 公定価格改定
  ⇒ 1か月分の影響あり

内部要因
- (+) コア製品群*1が大きくけん引
- (+) 新領域は前年同期比75%増
- (−) 一過性のコスト増要因あり
  ⇒ 一過性要因なければ12%増益

*1 競争力が高く特に注力する4つの製品 ⇒ ①心腔内除細動カテーテル「BeeAT」、②大腿静脈用止血デバイス、③S-ICD、④オープンステントグラフト

2025/3期 Q1 連結PL

Japan Lifeline

✓ 売上高及び各利益はいずれも四半期ベースで過去最高を更新

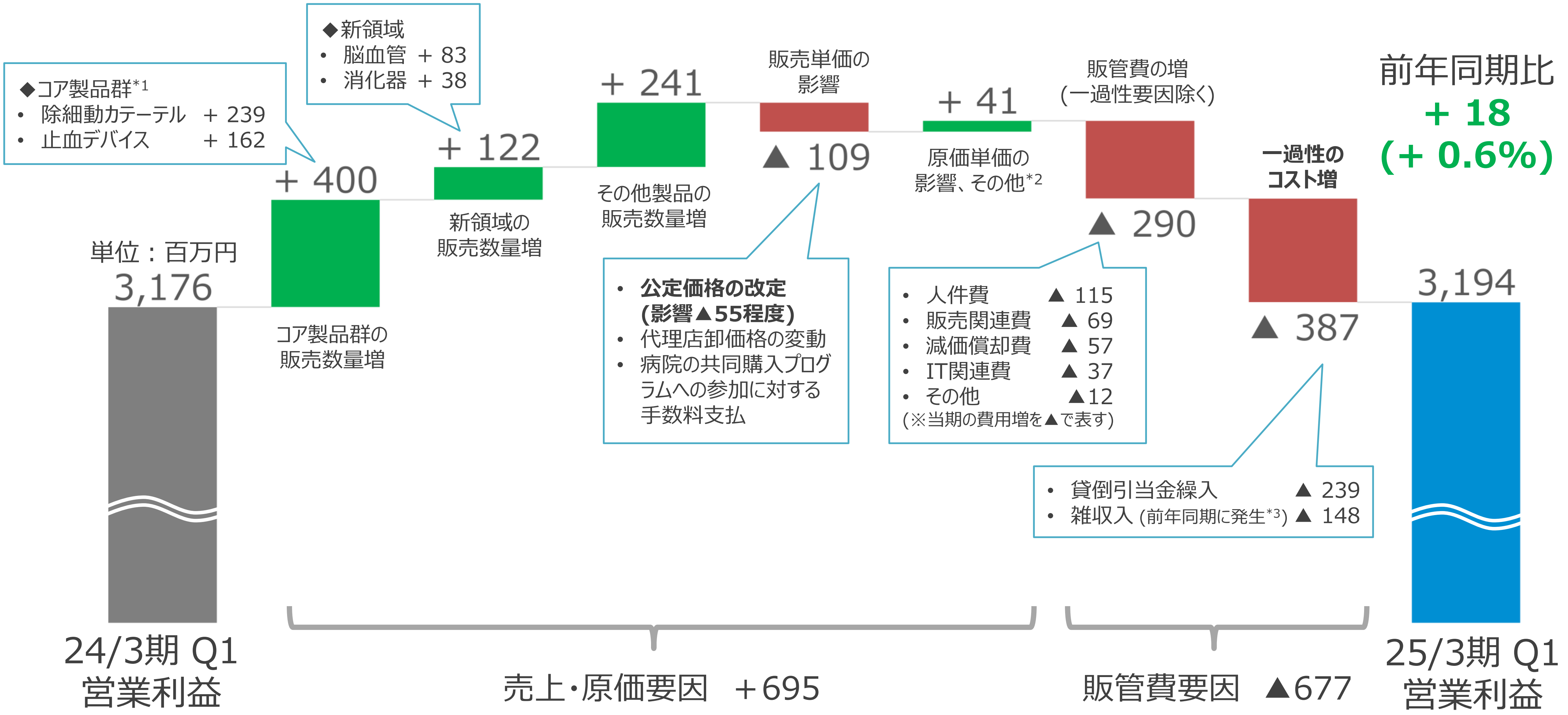
単位：百万円		2024/3期 Q1	2025/3期 Q1	前年同期比	前年同期比%	コメント
売上高		12,954	過去最高 14,010	+ 1,056	+ 8.2	(+) 症例増による販売増 (+) 新製品、新領域拡大
売上総利益		7,887	過去最高 8,583	+ 695	+ 8.8	(+) 低採算事業の終了 (+) 自社製品の原価低減 (−) 公定価格の改定
	%	60.9%	61.3%		+ 0.4pp	
販管費		4,711	5,388	+ 677	+ 14.4	
営業利益		3,176	過去最高 3,194	+ 18	+ 0.6	(−) 販管費の増 ※一過性のコスト増含む
	%	24.5%	22.8%		▲ 1.7pp	
当期純利益		2,330	過去最高 2,340	+ 10	+ 0.4	(+) 税額控除の適用
	%	18.0%	16.7%		▲ 1.3pp	
自社製品比率		59.8%	58.3%		▲ 1.5pp	(−) 仕入品の成長*1
1株当たり利益		30.03円	31.95円	+ 1.92円	+6.4	(+) 期中平均株式数(自己株式除く)の減少

*1 仕入商品の売上高は前年同期比12%増加 (自社製品は同5%増加) ⇒ 主に脳血管関連やEP/アブレーションの止血デバイス等が寄与

2025/3期 Q1 営業利益の増減分析

Japan Lifeline

✓ 販売は好調ながら、一過性のコスト増要因により微増益 (一過性の要因なければ12%増益)



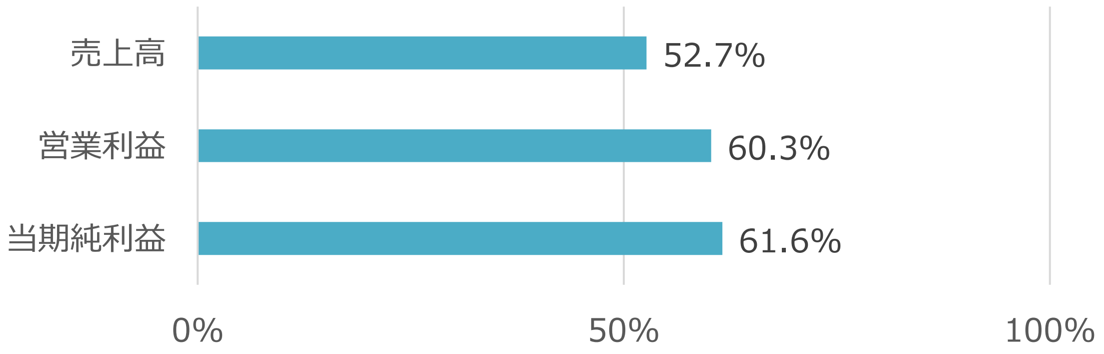
*1 競争力が高く特に注力する製品群 *2 製品廃棄・評価損の影響等を含む *3 Baylis社製品の販売契約終了に伴う在庫移管関連する雑収入等

2025/3期 Q1 予想に対する進捗率

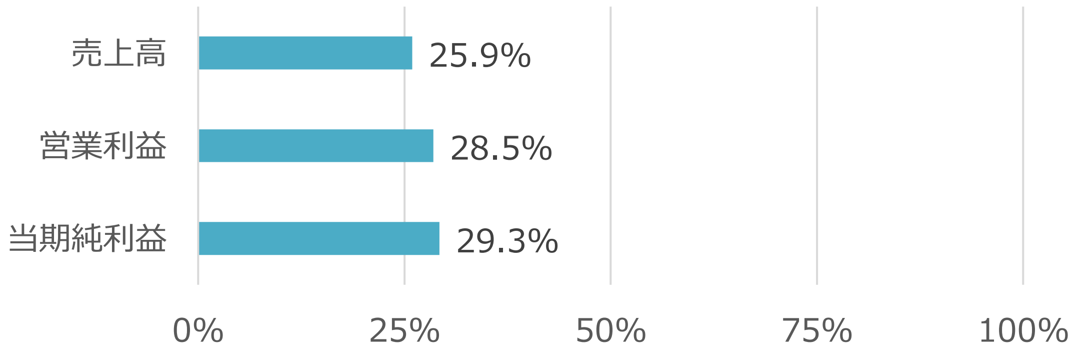
Japan Lifeline

✓ 一過性のコスト増はガイダンスで織り込み済み。Q1の進捗は順調

Q1業績進捗率 (対上期予想)



Q1業績進捗率 (対通期予想)



単位：百万円	25/3期 上期予想 (24/5/1開示)	前年同期比%
売上高	26,600	＋ 5.8
営業利益	5,300	▲ 3.2
純利益	3,800	▲ 5.8

単位：百万円	25/3期 通期予想 (24/5/1開示)	前年比%
売上高	54,000	＋ 5.1
営業利益	11,200	＋ 2.8
純利益	8,000	＋ 6.4

当社の品目区分

Japan Lifeline

既存領域（心臓）【構成比95%】*1

リズムデバイス
26%

- **不整脈**を治療する体内植込み型機器など

安定事業

【コア製品】
S-ICD

EP/アブレーション
47%

- **不整脈**手術で使われる医療用管など

【コア製品】
心腔内除細動カテーテル

【コア製品】
止血デバイス

中核事業

心血管関連
22%

- **大動脈**の外科手術で使われる人工臓器など

【コア製品】
オープンステントグラフト

新領域【構成比5%】

脳血管関連
3%

- **脳血管**の詰まりを解消する管など

血栓吸引カテーテル

塞栓用コイル

成長事業

消化器
2%

- **消化器**の詰まりを解消するステントなど

胆管チューブステント

*1 構成比は24/3期実績

当社の収益モデル

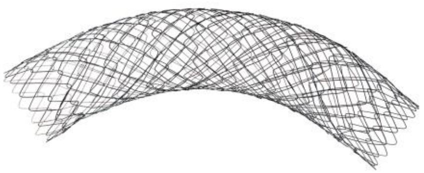
✓ 医療機器が手術で使用されるたびに売上が発生する

✓ 手術件数が増えるほど、売上が増加する

売上高 ＝ 数量 × 単価

数量 ＝ 手術件数(症例数) × 当社シェア

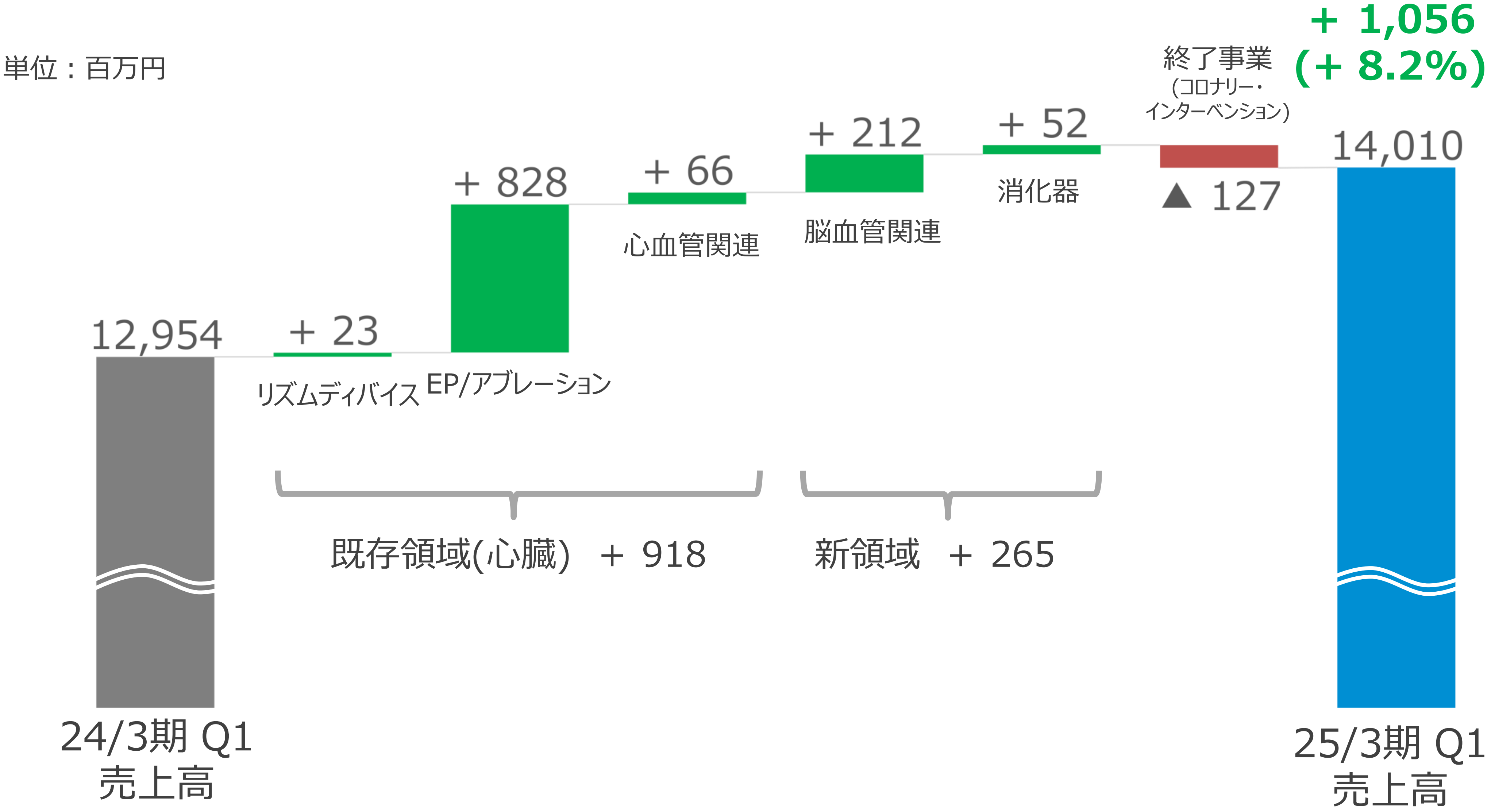
単価 ＝ 公定価格(保険償還価格) × 掛率(代理店卸値)



取り扱い製品のほとんどが、手術で使用される使い切りの医療機器

2025/3期 Q1 売上高 増減分析

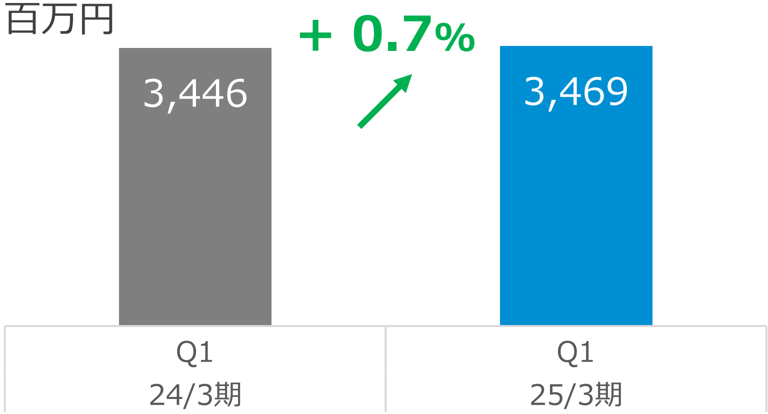
✓ すべての品目で増収を達成



公定価格改定の影響はあるも、前年同期並みをキープ

リズムディバイス 売上高

単位：百万円



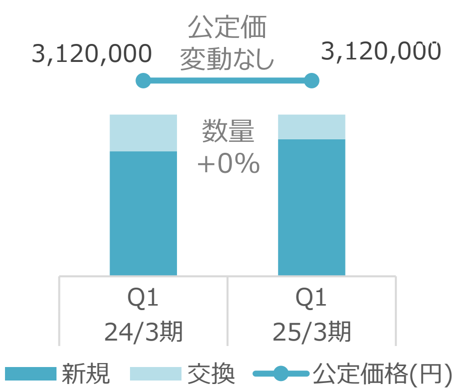
Q1 販売ハイライト **前年同期比 + 0.7%**

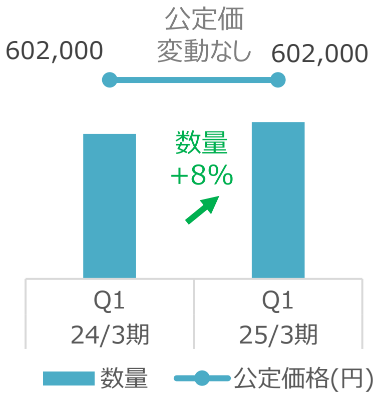
- **オンリーワンのS-ICDは1.1%増収**
  - ➢ 本体数量は横ばい、公定価格は下落なし
  - ➢ **新規症例の獲得**により、専用リードが8%増収
- **従来型のT-ICDは12%減収**
  - ➢ 前年同期に他社製品リコールや電池交換需要のピークあり
- **ペースメーカ関連は2.8%増収**
  - ➢ 数量は本体交換が増加(自主回収への対応)、公定価格は下落

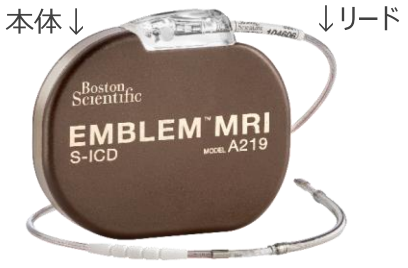
市況認識

- ペースメーカ・ICDは成熟市場(緩やかな拡大)
- **公定価格の改定**
  - ➢ ペースメーカ▲13%、ICD▲5% (S-ICDは下落なし)
- 他社リードレスペースメーカーが市場に浸透中

コア製品





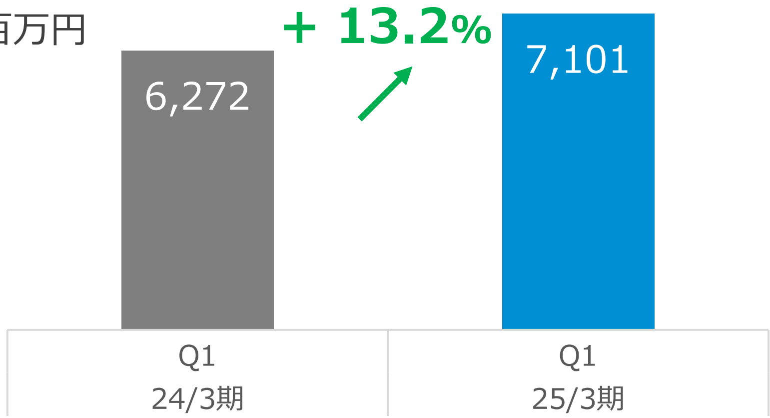


S-ICD

市場の高成長を取り込みつつ、新製品の市場開拓も順調に進む

EP/アブレーション 売上高

単位：百万円



Q1 販売ハイライト **前年同期比 + 13.2%**

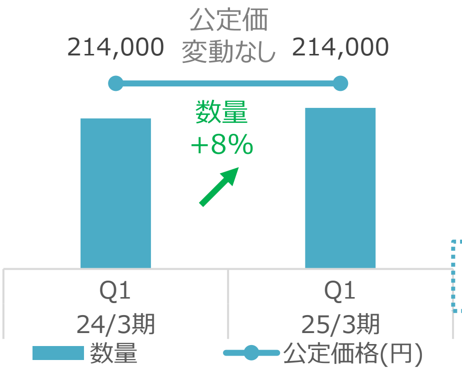
- **No.1の心腔内除細動カテーテル「BeeAT」は8%増収**
  - ➢ 数量+8%、公定価格は維持、推定自社シェア98% (Q1末)
- **食道温モニタリングカテーテルは二桁成長**(他社取扱終了)
- **止血デバイスが順調に進捗 QoQ + 70%**
- 自社製スティーラブルシースの改良版をリリース

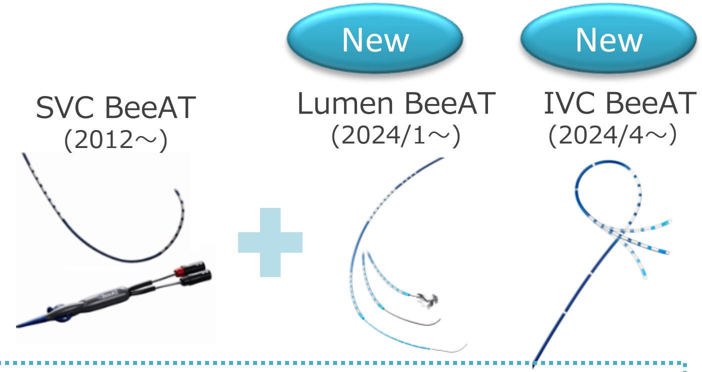
市況認識

- **心房細動(AF)症例数が増加**
  - ➢ **前年同期比 + 10%**（期初想定 通期で + 8%)
- 公定価格の改定
  - ➢ EPカテーテル 3～8%下落 (除細動カテーテルは下落なし)
- 競合外資はPFA*1の導入準備を進める一方、一部EPカテーテルから撤退
- **国内勢のEPカテーテル領域への新規参入**

コア製品

心腔内除細動カテーテル





心腔内除細動カテーテル「BeeAT」シリーズ

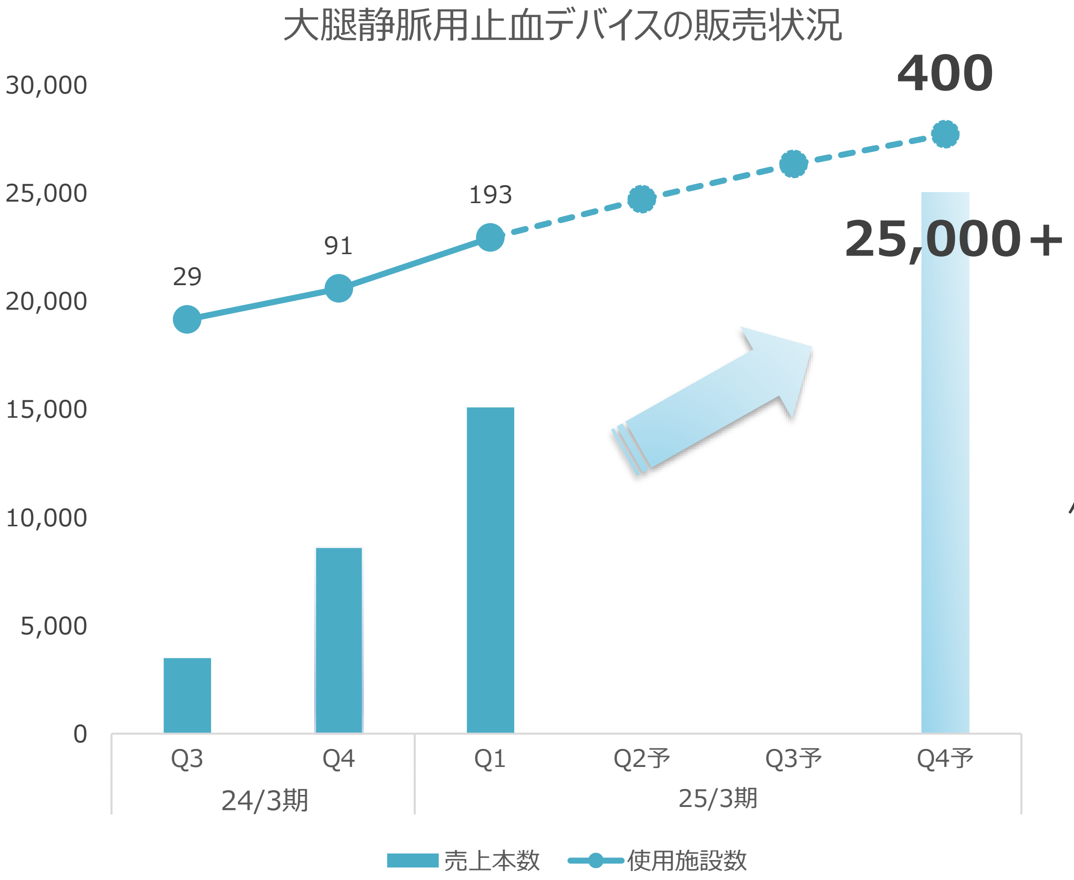
*1 PFA=Pulsed Field Ablation パルスフィールドアブレーション

止血デバイスの販売状況

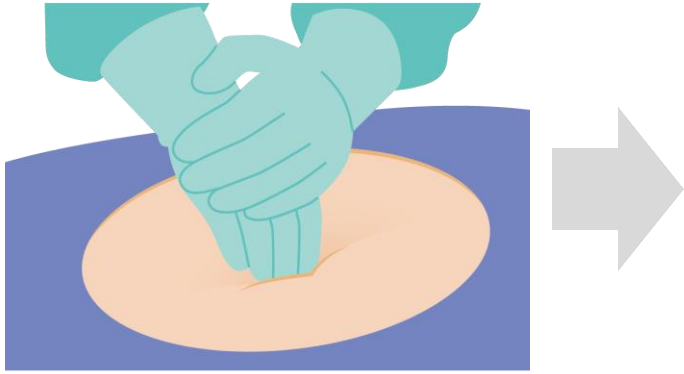
既存領域(心臓) ｜ リズムデバイス ｜ EP/アブレーション ｜ 心血管関連
新領域 ｜ 脳血管 ｜ 消化器

Japan Lifeline

- ✓ アブレーション手術の終了後、傷口の止血に使うデバイス (コラーゲンを使った静脈止血は当社のみ)
- ✓「医師の働き方改革」が進むなかで、術後早期止血のニーズは極めて高い
- ✓ 当期中に、全国のアブレーション実施施設(800施設)の半分程度への浸透を目指す

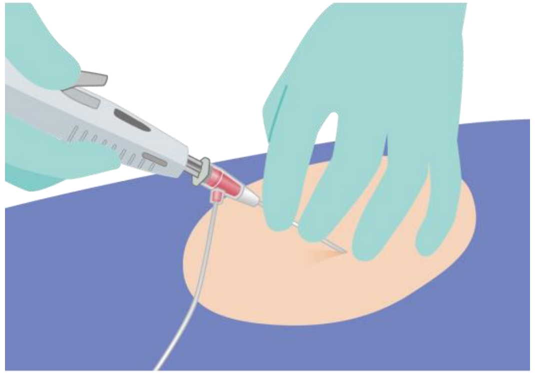


従来の止血



傷口を手で20~30分強く押さえる
その後、絶対安静(6～8時間)

止血デバイスを使った止血



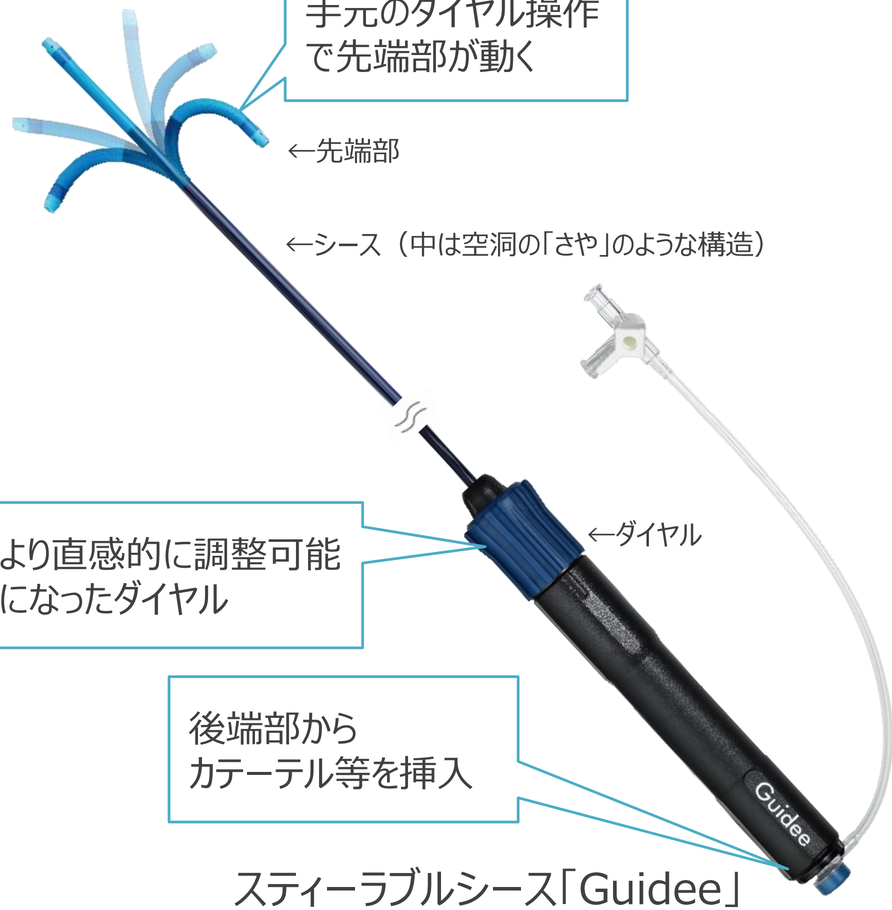
生体吸収性コラーゲンの凝固により数分で止血
安静時間は2時間程度に短縮

大腿静脈用止血デバイス
「VASCADE MVP」
(仕入品：ヘモネティクス社製)

【新製品】スティーラブルシース

アブレーション手術の必須アイテム。「使いやすさ」を追求した改良品を上市

製品名	• **自社製 スティーラブルシース「Guidee」(ガイディー)** 一般的名称：心臓用カテーテルイントロデューサーキット ※スティーラブル＝先端部が自由に動く ※シース＝「さや」のような構造。中にカテーテルを通して使う
使用場面	• **心房細動のアブレーション症例の約9割で使用** • 治療用カテーテル等を中に入れ、先端部を動かして目的位置にセットする
販売	• 2016年から販売している旧モデルを大幅刷新 • 2024/6 改良版リリース
市場	• **市場規模　70～80億円** • **現状シェア10%　⇒　目標20%以上**
主な特長（改良点）	• 様々な特殊加工*1による**高い操作性** • 高い止血性 • エアー混入を視認可能な安全に配慮した構造



スティーラブルシース「Guidee」
保険償還価格：116,000円
(2024/6時点)

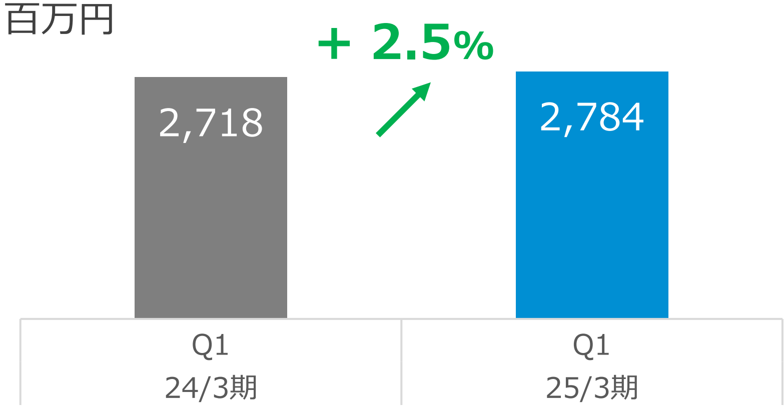
*1 先端のテーパー加工、表面凹凸加工、シャフトの3段階硬度変化などにより、スムーズな穿刺・中隔通過を実現

2025/3期 Q1 心血管関連

オープンステントグラフトは競争がある中でも増収、他製品も伸ばす

心血管関連 売上高

単位：百万円



Q1 販売ハイライト　**前年同期比 + 2.5%**

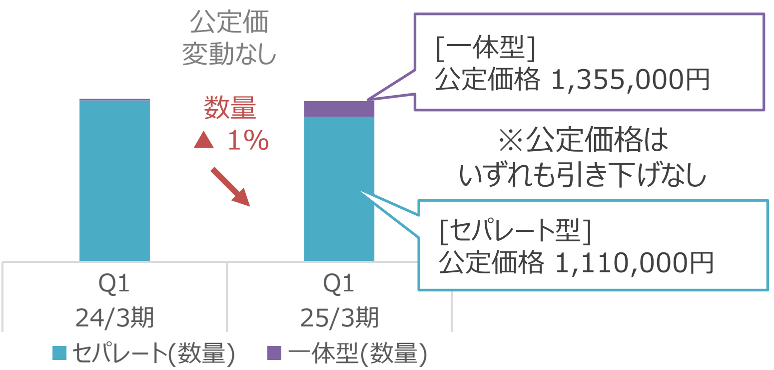
- **No.1のオープンステントグラフトは0.9%増収**
  - ➢ **他社が展開する単価の高い「一体型」(Frozenix 4B)に注力**
    ⇒ 数量▲1%、単価＋2% (ミックス良化)
    推定自社シェア91% (Q1末)
- **その他製品も好調**
  - ➢ 腹部ステントグラフト 3.1%増収、当社オンリーワンの「Alto」*1が寄与
  - ➢ 心房中隔欠損閉鎖器具が25%増収、シェア増加

市況認識

- オープンステントグラフトを使う症例が他社の新規参入により増加中
  - ➢ 従来は年4～5%成長の当社独占市場
    ⇒ 直近は年9%程度の速度で拡大か
- **公定価格の改定**
  - ➢ **人工血管 ▲3%、オープンステントグラフトは下落なし**

コア製品

オープンステントグラフト



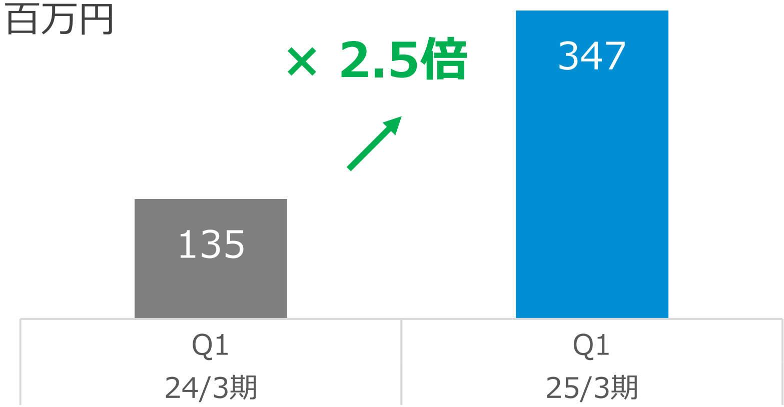
*1 ポリマー充填型は当社のみ　参考：P29

2025/3期 Q1 脳血管関連

継続的な新商品の導入と着実な浸透により、大きく成長

脳血管関連 売上高

単位：百万円



Q1 販売ハイライト　前年同期比 2.5倍

脳動脈瘤
- **塞栓用コイル 前年同期比 2倍**
  - ➢ 3種類のモデル展開で順調にシェア拡大
  - ➢ 販売部隊の強化(経験者採用)が販売に好影響

脳梗塞
- **血栓吸引カテーテル 前年同期比 7.2倍**
  - ➢ 前期Q1上市 ⇒ 推定シェア10% (Q1末)

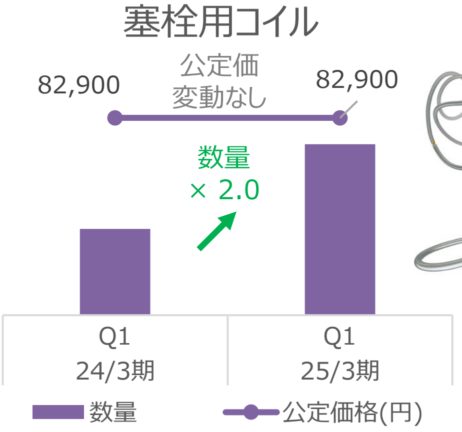
両方
- **Q1に新たにマイクロカテーテルを発売**

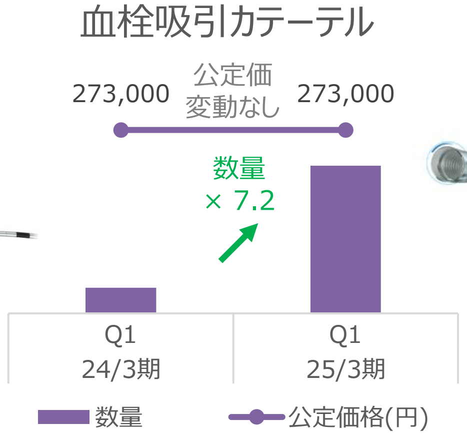
マイクロカテーテル
「pNOVUS」(ピノバス)

市況認識

- 公定価格の改定 ⇒ 影響なし
- 脳血管内のデバイス治療は現在普及期、**今後CAGR8%程度の成長**を予想
- 参入企業が多いが、価格競争には陥っていない

注力商品

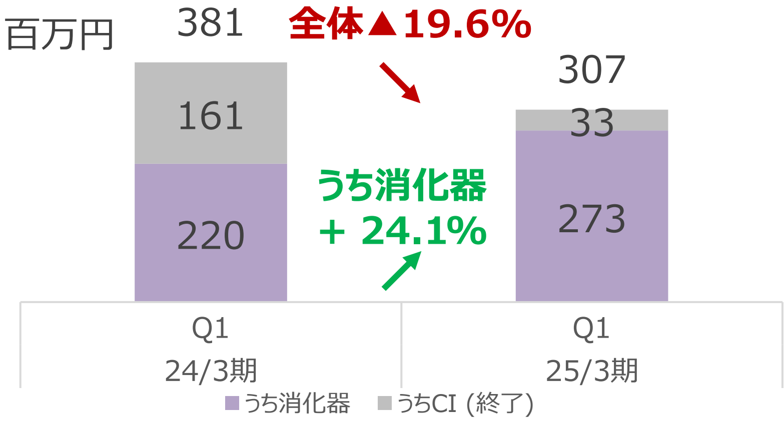




2025/3期 Q1 消化器

胆膵領域の主力製品が順調に伸びる

消化器 売上高



Q1 販売ハイライト 前年同期比 ▲19.6% 消化器は同+24.1%

胆膵

- **主力の胆管チューブステントは前年同期比 1.8倍**
  - ➢ 数量効果で原価低減、粗利率の改善も進む
  - ➢ 消化器売上高の約４割を占める主力製品
- **Q1よりERCPガイドワイヤ(仕入品)を販売開始**

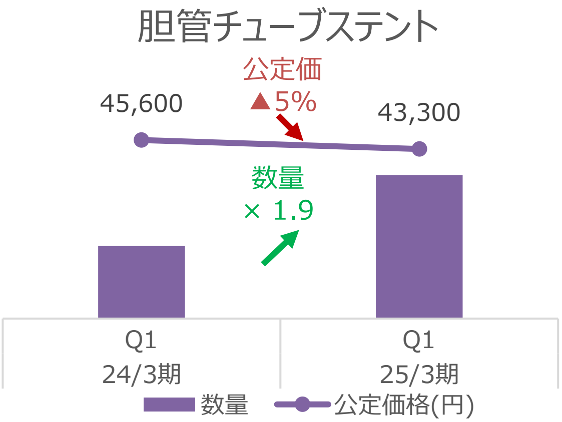
消化管

- **大腸ステントが23%増収**、新モデルの預託施設増加

市況認識

- 胆膵処置具の市場は年率3～4%の増加
- 胆管チューブステントの公定価格は26/3までに35%の段階的な引き下げを見込む **(24/6は5%引き下げ)**
- 1社独占だった胆道鏡市場に複数社が参入中

主力製品



胆管チューブステント
「REGULUS」(レグルス)

Japan Lifeline

01. 2025年3月期 Q1決算報告

02. 質疑応答

Appendix 1 決算補足資料

Appendix 2 投資家様向け会社紹介資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (https://www.jll.co.jp/investors/) からダウンロードできます。

Japan Lifeline

01. 2025年3月期 Q1決算報告

02. 質疑応答

Appendix 1 決算補足資料

Appendix 2 投資家様向け会社紹介資料

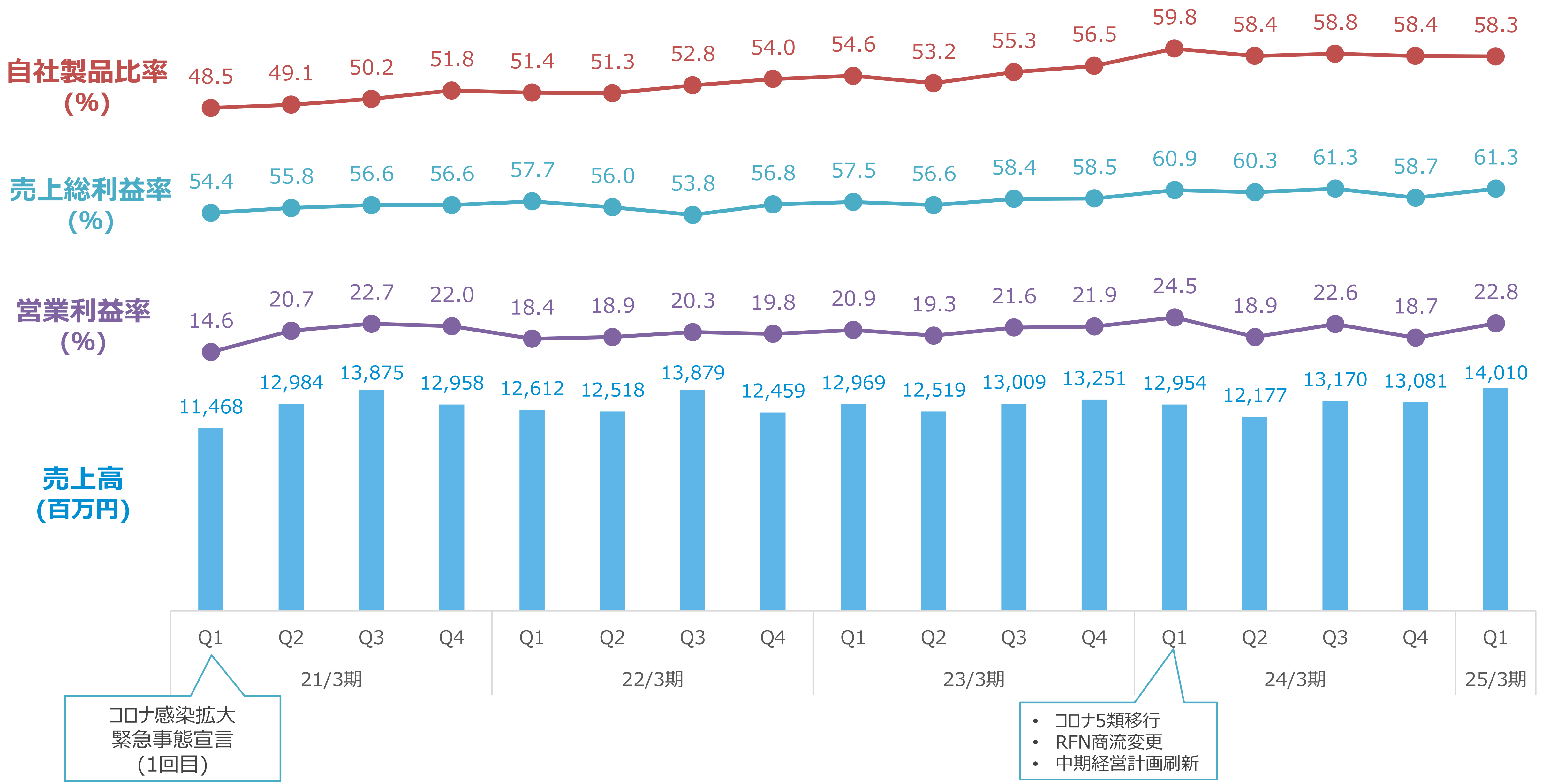
決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (https://www.jll.co.jp/investors/) からダウンロードできます。

連結損益計算書

		2022/3期	2023/3期	2024/3期					2025/3期			
		通期	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	上期予	下期予	通期予
売上高	**百万円**	**51,469**	**51,750**	**12,954**	**12,177**	**13,170**	**13,081**	**51,384**	**14,010**	**26,600**	**27,400**	**54,000**
前年比	%	*0.4*	*0.5*	*-0.1*	*-2.7*	*1.2*	*-1.3*	*-0.7*	*8.2*	*5.8*	*4.4*	*5.1*
売上原価	百万円	22,634	21,855	5,066	4,834	5,096	5,400	20,397	5,427	10,600	11,100	21,700
売上総利益	**百万円**	**28,835**	**29,895**	**7,887**	**7,343**	**8,073**	**7,681**	**30,986**	**8,583**	**16,000**	**16,300**	**32,300**
対売上高	%	56.0	57.8	60.9	60.3	61.3	58.7	60.3	61.3	60.2	59.5	59.8
販管費	百万円	18,861	19,057	4,711	5,046	5,096	5,239	20,094	5,388	10,700	10,400	21,100
営業利益	**百万円**	**9,973**	**10,837**	**3,176**	**2,296**	**2,977**	**2,442**	**10,892**	**3,194**	**5,300**	**5,900**	**11,200**
対売上高	%	19.4	20.9	24.5	18.9	22.6	18.7	21.2	22.8	19.9	21.5	20.7
前年比	%	*-3.8*	*8.7*	*17.3*	*-4.8*	*5.9*	*-16.0*	*0.5*	*0.6*	*-3.2*	*8.9*	*2.8*
営業外収益	百万円	316	293	132	121	2	134	390	131	-	200	200
営業外費用	百万円	285	224	65	39	14	582	701	110	100	300	400
経常利益	**百万円**	**10,005**	**10,905**	**3,244**	**2,377**	**2,964**	**1,994**	**10,581**	**3,215**	**5,200**	**5,800**	**11,000**
対売上高	%	19.4	21.1	25.0	19.5	22.5	15.2	20.6	23.0	19.5	21.2	20.4
特別利益	百万円	44	100	0	12	0	0	13	20	-	-	-
特別損失	百万円	8	1,217	4	4	6	4	19	11	-	-	-
税引前当期純利益	**百万円**	**10,041**	**9,789**	**3,240**	**2,386**	**2,959**	**1,990**	**10,575**	**3,224**	**5,200**	**5,800**	**11,000**
税金費用	百万円	2,556	2,897	910	682	819	648	3,060	884	1,400	1,600	3,000
当期純利益	**百万円**	**7,484**	**6,891**	**2,330**	**1,703**	**2,139**	**1,342**	**7,515**	**2,340**	**3,800**	**4,200**	**8,000**
対売上高	%	14.5	13.3	18.0	14.0	16.2	10.3	14.6	16.7	14.3	15.3	14.8
1株当たり利益	円	93.13	88.22	30.03	22.32	28.32	17.64	98.73	31.95	53.66	59.92	113.58
自社製品比率	%	52.4	54.9	59.8	58.4	58.8	58.4	58.8	58.3	58.2	57.7	57.9
研究開発費	百万円	2,159	2,316	502	576	592	695	2,366	538	1,374	1,333	2,707
治験費用・薬事申請費用	百万円	306	19	2	13	25	29	70	29	85	86	171
設備投資	百万円	1,633	976	262	219	1,829	1,257	3,568	316	1,036	700	1,736
減価償却費	百万円	1,611	1,566	330	340	380	420	1,471	424	858	928	1,786

四半期業績の推移

Japan Lifeline

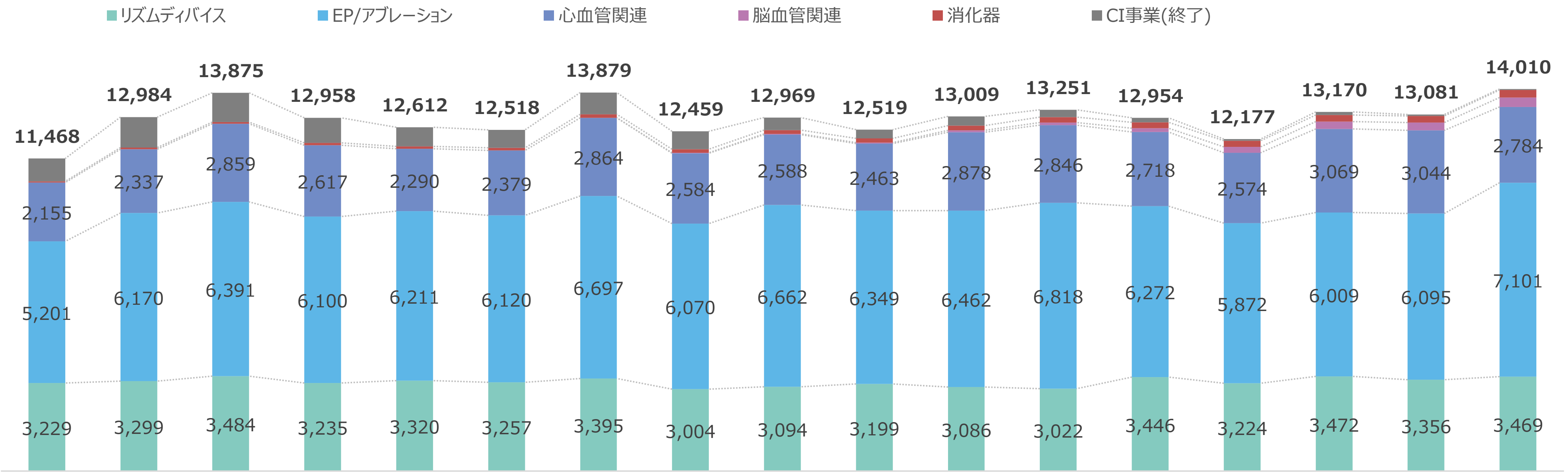


四半期売上高の推移

Japan Lifeline

品目別売上高の推移

単位：百万円



	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
	21/3期				22/3期				23/3期				24/3期				25/3期
合計	11,468	12,984	13,875	12,958	12,612	12,518	13,879	12,459	12,969	12,519	13,009	13,251	12,954	12,177	13,170	13,081	14,010
CI事業(終了)	842	1,122	1,071	921	702	659	795	650	463	320	338	271	161	63	110	53	33
消化器	39	54	67	84	87	101	126	138	136	153	171	193	220	223	238	242	273
脳血管関連							0	11	23	34	72	99	135	218	269	289	347
心血管関連	2,155	2,337	2,859	2,617	2,290	2,379	2,864	2,584	2,588	2,463	2,878	2,846	2,718	2,574	3,069	3,044	2,784
EP/アブレーション	5,201	6,170	6,391	6,100	6,211	6,120	6,697	6,070	6,662	6,349	6,462	6,818	6,272	5,872	6,009	6,095	7,101
リズムディバイス	3,229	3,299	3,484	3,235	3,320	3,257	3,395	3,004	3,094	3,199	3,086	3,022	3,446	3,224	3,472	3,356	3,469

品目別売上高の詳細

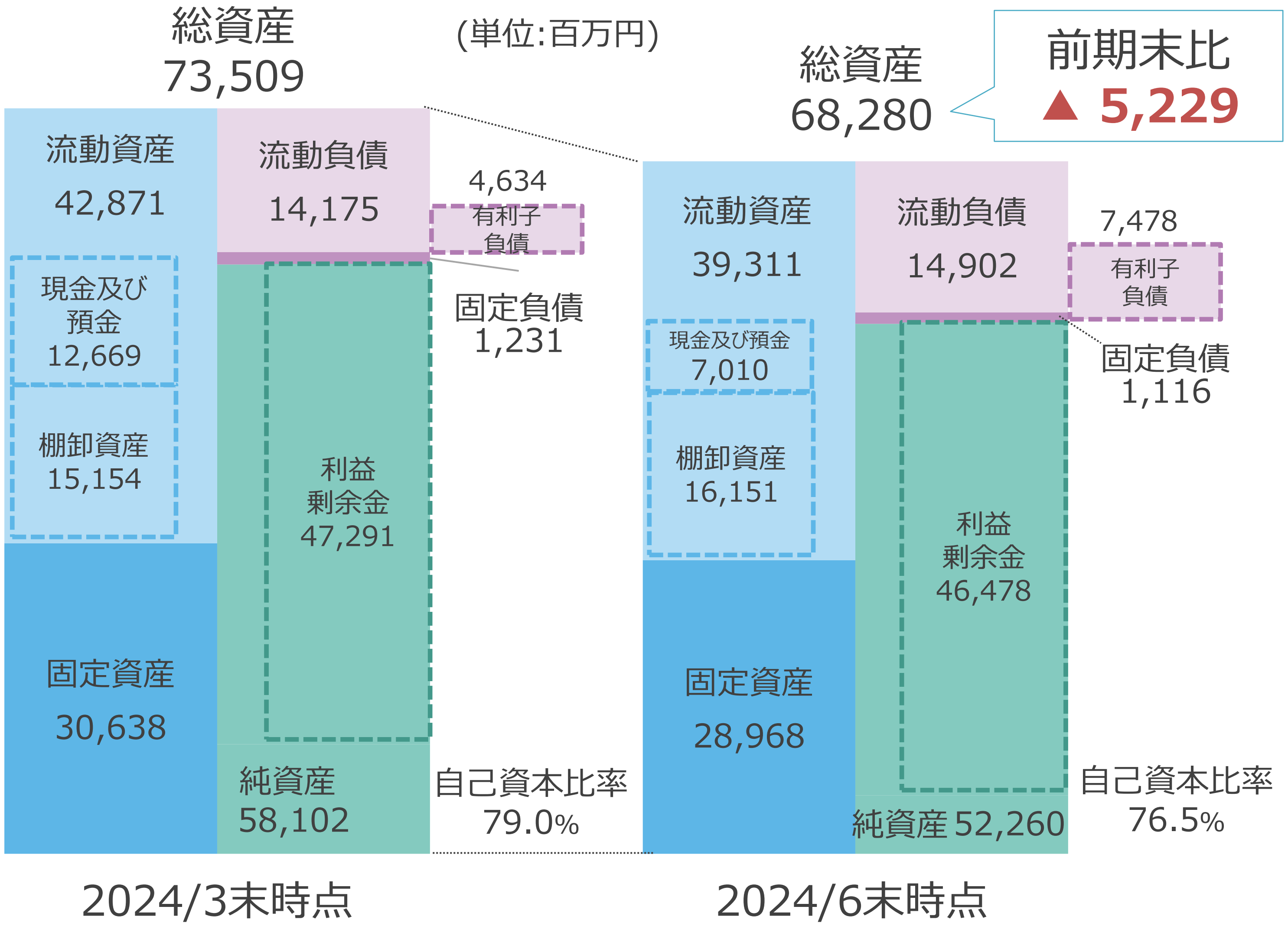
Japan Lifeline

			2022/3期	2023/3期	2024/3期					2025/3期			
			通期	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	上期予	下期予	通期予
ペースメーカ関連	ペースメーカ、CRT-P、リード	百万円	5,899	4,979	1,344	1,208	1,371	1,316	5,241	1,381	2,430	2,230	4,660
ICD関連	S-ICD, CRT-D、リード	百万円	6,747	7,049	1,994	1,917	2,009	1,936	7,857	1,978	3,890	3,690	7,580
その他	AED	百万円	330	374	108	98	91	104	402	109	220	230	450
リズムディバイス		**百万円**	**12,977**	**12,403**	**3,446**	**3,224**	**3,472**	**3,356**	**13,501**	**3,469**	**6,540**	**6,150**	**12,690**
前年比		%	*-2.0*	*-4.4*	*11.4*	*0.8*	*12.5*	*11.1*	*8.9*	*0.7*	*-2.0*	*-10.0*	*-6.0*
EPカテーテル	心腔内除細動カテーテル「BeeAT」、食道温カテーテル	百万円	18,412	19,654	5,578	5,213	5,244	5,175	21,211	5,971	11,350	10,930	22,280
ABLカテーテル	内視鏡レーザーアブレーションカテーテル「HeartLight」	百万円	1,232	1,011	228	187	200	223	840	204	390	370	760
その他	止血デバイス、スティーラブルシース	百万円	5,455	5,626	465	470	564	696	2,197	925	1,740	2,200	3,940
EP/アブレーション		**百万円**	**25,099**	**26,292**	**6,272**	**5,872**	**6,009**	**6,095**	**24,249**	**7,101**	**13,480**	**13,500**	**26,980**
前年比		%	*5.2*	*4.8*	*-5.9*	*-7.5*	*-7.0*	*-10.6*	*-7.8*	*13.2*	*11.0*	*11.5*	*11.3*
人工血管関連	オープンステントグラフト、人工血管、腹部ステントグラフト	百万円	9,368	10,353	2,639	2,441	2,949	2,926	10,956	2,686	5,200	5,880	11,080
その他	心房中隔欠損閉鎖器具	百万円	748	423	78	133	120	117	449	97	200	210	410
心血管関連		**百万円**	**10,117**	**10,776**	**2,718**	**2,574**	**3,069**	**3,044**	**11,406**	**2,784**	**5,400**	**6,090**	**11,490**
前年比		%	*1.5*	*6.5*	*5.0*	*4.5*	*6.7*	*7.0*	*5.9*	*2.5*	*2.0*	*-0.4*	*0.7*
脳血管関連	塞栓用コイル、血栓吸引カテーテル	百万円	12	230	135	218	269	289	912	347	640	980	1,620
脳血管関連		**百万円**	**12**	**230**	**135**	**218**	**269**	**289**	**912**	**347**	**640**	**980**	**1,620**
前年比		%	*-*	*1753.6*	*473.3*	*537.9*	*270.1*	*191.1*	*296.7*	*157.5*	*81.0*	*75.4*	*77.6*
消化器関連	胆管チューブステント、大腸ステント、肝がんニードル	百万円	453	654	220	223	238	242	925	273	540	680	1,220
その他	終了事業（コロナリー・インターベンション、旧PI関連）	百万円	2,808	1,394	161	63	110	53	388	33	-	-	-
消化器		**百万円**	**3,261**	**2,048**	**381**	**287**	**349**	**296**	**1,314**	**307**	**540**	**680**	**1,220**
前年比		%	*-22.4*	*-37.2*	*-36.4*	*-39.3*	*-31.4*	*-36.3*	*-35.8*	*-19.6*	*-19.3*	*5.3*	*-7.2*
連結売上高		**百万円**	51,469	51,750	12,954	12,177	13,170	13,081	51,384	14,010	26,600	27,400	54,000
前年比		%	*0.4*	*0.5*	*-0.1*	*-2.7*	*1.2*	*-1.3*	*-0.7*	*8.2*	*5.8*	*4.4*	*5.1*

2025/3期 Q1 BSサマリ（対前期末）

Japan Lifeline

- ✓ 自己株式の取得、配当支払、法人税支払等により、前期末からバランスシートは縮小
- ✓ 堅調な事業環境の見通しの下、仕入強化や増産の対応をしたため、棚卸資産は増加



単位: 百万円	前期末からの変動額	変動の主な要因
流動資産	▲ 3,559	• 現金及び預金▲5,658 • 売上債権＋964 • 棚卸資産＋996
固定資産	▲ 1,669	• 投資有価証券▲803 • 繰延税金資産▲516
流動負債	＋ 727	• 短期借入+3,000 • 未払法人税▲1,301 • 賞与引当金▲957
固定負債	▲ 114	
純資産	▲ 5,842	• 自己株式▲5,207 • 利益剰余金▲813 (うち配当▲3,154、当期利益+2,340)

事業環境 現時点から6か月先の見通し

Japan Lifeline

- ✓ Q単位で売上高に影響する要素をポジティブ、ニュートラル(前Qから状況変わらず)、ネガティブの3段階で表す
- ✓ 前回の見解から変更がある場合は、前回の見解を併記してコメントを赤字で記す

メイン区分	サブ区分	2025/3期 Q1 実績		2025/3期 Q2 予想		2025/3期 Q3 予想	
リズムディバイス	ペースメーカ関連	➡	リコール関連の交換増加、他社との競争	↘	公定価改定による単価下落、リコール関連の交換減、他社との競争	⇨	直前Qから大きな傾向の変化を見込まない
	ICD関連	➡	S-ICD堅調	↘	S-ICD堅調、T-ICDで単価下落	⇨	直前Qから大きな傾向の変化を見込まない
EP/アブレーション	EPカテーテル	↗ 前回: →	AF症例 YoY+10% (期初想定は+8%)	➡	AF症例 YoY+8~10%想定、公定価改定による単価下落	↗	AF症例 YoY+8~10%想定
	ABLカテーテル	⇨	HeartLight X3販売鈍い	⇨	直前Qから大きな傾向の変化を見込まない	⇨	直前Qから大きな変化なし(拡販遅れ)
	その他	↗	止血デバイスの販売加速、スティーラブルシースの新製品をフルリリース	↗	直前Qより止血デバイスの拡販さらに進む、シース製品の寄与も増	↗	直前Qより販売モメンタムが加速
心血管関連	人工血管関連	↘	季節性の減、OSG*1は他社との競争で横ばい	⇨	OSGで他社との競争、人工血管は単価下落	↗	季節性の増、OSG増産による症例獲得機会の拡大
脳血管関連	脳血管関連	↗ 前回: →	経験者採用で再加速	↗	マイクロカテーテル、ステントリトリーバー発売、既存品とのシナジー	↗	直前Qより販売モメンタムが加速
消化器	消化器 (消化管、胆膵)	↗ 前回: →	胆管チューブステント持ち直し、大腸ステント上向き、胆膵ガイドワイヤ上市	↗	直前Qより販売モメンタムが加速、胃十二指腸ステント・胆管バルーン再上市	↗	直前Qより販売モメンタムが加速、胆道鏡再上市

*1 OSG=オープンステントグラフト

凡例：
- ↗ 前Qより(さらに)上向き
- ➡ 前Qから概ね横ばい 良好な環境は継続
- ↘ 前Qより(さらに)下向き
- ⇨ 前Qから概ね横ばい 好ましくない環境は継続

商品紹介 リズムディバイス

既存領域(心臓) | 新領域

Japan Lifeline

✓ 不整脈を治療する体内植込み型の医療機器

ペースメーカ関連

徐脈 (じょみゃく：脈が遅い)

心臓ペースメーカ

商品名：Accolade（Boston Scientific社製）

心臓の拍動が遅くなる不整脈(徐脈)に対して、人工的に電気刺激を与えることで拍動を保ちます。

保険償還価格

シングルチャンバ　391,000円

デュアルチャンバ　516,000円

CRT-P (両心室心臓ペースメーカ)

商品名：Visionist X4（Boston Scientific社製）

重症心不全に対して、心臓の左右両方の心室に電気刺激を与える、心臓の同期不全を整えポンプ機能を改善します。

保険償還価格

1,260,000円

ＩＣＤ関連

頻脈 (ひんみゃく：脈が速い)

T-ICD (経静脈植込型除細動器)

商品名：Resonate（Boston Scientific社製）

心臓の拍動が早まる不整脈(頻脈)のうち、致死性の不整脈である心室細動の発生を検知し、電気ショックを与え、拍動を正常な状態に戻します。

保険償還価格

シングルチャンバ　2,580,000円

デュアルチャンバ　2,660,000円

S-ICD (完全皮下植込型除細動器)

商品名：Emblem MRI（Boston Scientific社製）

T-ICDは静脈を介し心臓内にリードを留置しますが、S-ICDは全ての機器を皮下に植込み血管内や心臓へ異物留置がありません。

保険償還価格

3,120,000円

当社オンリーワン　コア製品

*保険償還価格は2024年６月１日現在

商品紹介 EP/アブレーション

既存領域(心臓)　新領域

Japan Lifeline

✓ 不整脈（主に心房細動）の検査や治療を行う、ディスポーザブルの電極付カテーテルなどの医療機器

ＥＰカテーテル関連
心房細動などの診断／検査

EP（電気生理用）カテーテル
製品名：EP Star, Libero, Snake, Esophastar（自社製品）

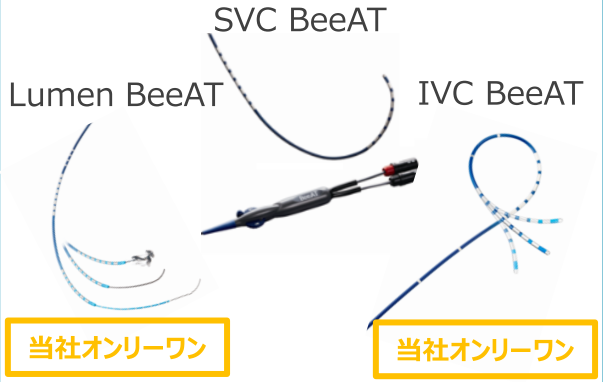
不整脈の診断や治療方法の適応を判断する検査に用います。カテーテル先端の電極で、心臓内電位を測定したり、不整脈を誘発させて原因を特定します。

保険償還価格

標準型(電極数3～5)　43,100円

温度センサ付(エソファスター)　81,700円

心腔内除細動カテーテル
製品名：BeeATシリーズ（自社製品）



アブレーション治療時に発生する心房細動に対し、心腔内で除細動を行うことで、低侵襲に心房細動を停止させます。またEPカテーテルとしての診断機能も合わせ持っています。

保険償還価格

214,000円

コア製品

ＡＢＬカテーテル関連
心房細動などの治療

アブレーションカテーテル
製品名：Ablaze（自社製品）

頻脈の原因となる心臓内の異常な電気刺激の経路を、カテーテル先端部の電極から流す高周波電流で焼き切ることにより治療します。

保険償還価格

通常型　112,000円

内視鏡レーザーアブレーションカテーテル
商品名：HeartLight X3（Cardio Focus社製）

バルーン内部からレーザーを照射し、頻脈の原因となる部位を焼き切り治療します。カテーテル内部の内視鏡で、正確な留置・焼灼が可能です。

保険償還価格

505,000円

当社オンリーワン

*保険償還価格は2024年６月１日現在

Japan Lifeline

✓ 心房細動のアブレーション手術に関連する医療機器

その他

スティーラブルガイディングシース

商品名：Leftee, Guidee（自社製品）

診断又は治療のためのカテーテルを経皮的に心臓に挿入するために使用されます。先端部は、ハンドルの回転ノブを操作することで、屈曲させることができます。

保険償還価格

116,000円

大腿静脈用止血デバイス

商品名：VASCADE MVP (Haemonetics社製)

アブレーション手術等の後に穿刺部 (太腿)の止血を行うために用いられます。体内吸収性のコラーゲンを用いて止血するもので、術後の止血時間および安静期間の短縮化が期待できます。

保険償還価格

28,400円

(条件により1症例4セットまで保険算定可)

当社オンリーワン　コア製品

ATパッチ心電図レコーダ

商品名：ATパッチ (ATsens社製)

世界最小クラスのコードレス心電図レコーダであり、小型・軽量の使い捨てのパッチを体表面に貼ることで検査を行います。最長7日間の長期データ記録が可能です。

希望小売価格

175,000円

(保険償還価格なし　１箱10個入)

*保険償還価格は2024年６月１日現在

商品紹介 心血管関連

既存領域(心臓)　新領域

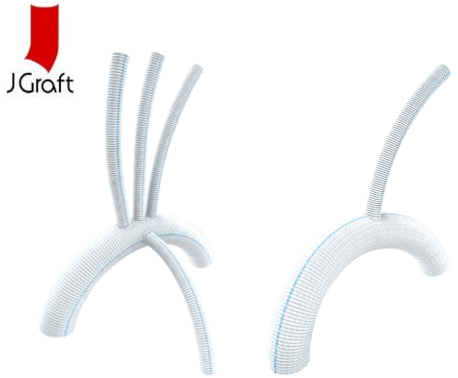
Japan Lifeline

✓ 本来の機能が失われた血管を人工の器官に置き換え、治療するための医療機器

人工血管関連：大動脈瘤、大動脈解離

人工血管

製品名：J Graftシリーズ（自社製品）



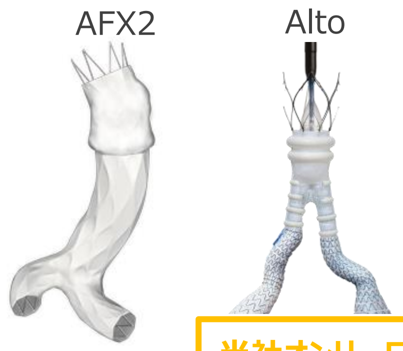
開胸手術により動脈瘤などで痛んだ血管を切り取り、人工血管に置き換え治療します。

保険償還価格

分岐なし（ストレート）	110,000円
1分岐（T字）	174,000円
2分岐以上（4分岐）	237,000円

(腹部用)ステントグラフト

商品名：AFX2, Alto (Endologix社製)



当社オンリーワン

外科手術を行うことなく、足の付け根の血管からカテーテルを通じて、治療部位に留置し大動脈瘤を治療します。

保険償還価格

標準型（AFX）	1,320,000円
ポリマー充填型（Alto）	1,430,000円

オープンステントグラフト

製品名：Frozenixシリーズ（自社製品）

大動脈瘤や大動脈解離の開胸手術で使用されます。ステント構造により末梢側が吻合不要となるため、低侵襲な手術に貢献します。

保険償還価格

セパレート型(Frozenix, Frozenix Partial ET)	1,110,000円
一体型 (Frozenix 4B)	1,355,000円

コア製品

その他：心房中隔欠損症

心房中隔欠損閉鎖器具

製品名：Figulla Flex Ⅱ（Occlutech 社製）

心臓の左右の心房間にある穴（心房中隔欠損）を塞ぐことで、心臓の構造的な異常を治療します。

保険償還価格

772,000円

*保険償還価格は2024年６月１日現在

商品紹介 脳血管関連

既存領域(心臓) | 新領域

Japan Lifeline

✓ 脳動脈瘤や脳梗塞を治療するための医療機器

脳血管関連	
脳動脈瘤	急性期脳梗塞
塞栓用コイル 商品名：Avenir（Wallaby Medical社製） 脳動脈瘤内に塞栓用コイルを留置することで血液の流入を遮断し、瘤の破裂(くも膜下出血)を防ぎます。 保険償還価格 ワイヤー式 82,900円	**血栓吸引カテーテル** 商品名：Esperance（Wallaby Medical社製） 脳血管内にカテーテルを挿入し血栓を回収することで、急性期脳梗塞の治療を行います。 保険償還価格 273,000円

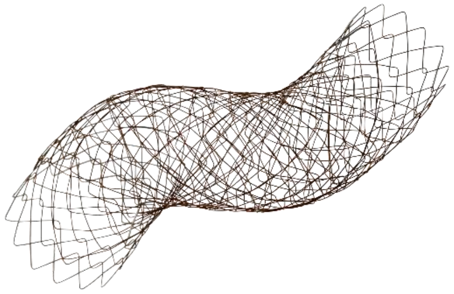
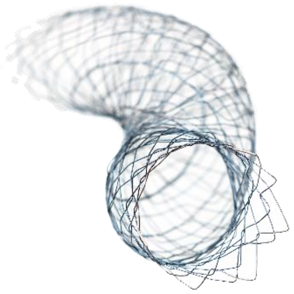
*保険償還価格は2024年６月１日現在

商品紹介 消化器

既存領域(心臓) | 新領域

Japan Lifeline

✓ 肝臓や大腸などの消化器疾患を治療するための医療機器

消化器			
消化管		肝臓	胆膵
大腸用ステント 製品名：JENTLLY NEO Colonic Stent（自社製品）	**胃・十二指腸用ステント** 製品名：JENTLLY NEO Duodenal Stent（自社製品）	**肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針** 製品名：arfa（自社製品）	**胆管チューブステント** 製品名：REGULUS（自社製品）
			
癌により閉塞した大腸を押し広げるために用います。細いガイドワイヤーで閉塞部を通過させた後、これに沿ってステントを展開します。	癌により閉塞した胃や十二指腸を押し広げるために用います。細いガイドワイヤーで閉塞部を通過させた後、これに沿ってステントを展開します。	超音波(エコー)やCTで観察しながら針状の電極を経皮的に肝癌の病変組織へ挿入し、電極周囲にラジオ波による熱を発生させ病変を焼灼し治療します。	胆管が胆石や腫瘍などの圧迫によって狭くなった箇所にステントを留置し広げることで、胆汁の流れを改善して治療します。
保険償還価格 212,000円	保険償還価格 212,000円	保険償還価格なし ※希望小売価格　108,000円	保険償還価格 43,300円

*保険償還価格は2024年６月１日現在

会社概要

Japan Lifeline

商号	日本ライフライン株式会社
代表者	代表取締役社長　鈴木啓介
本社	東京都品川区東品川2-2-20　天王洲オーシャンスクエア
設立	1981年2月6日
上場市場	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	7575
事業内容	医療用機器の製造、販売、輸出および輸入販売
資本金	2,115百万円
決算期	3月31日
従業員数	連結1,296名/単体1,018名(2024年3月31日 現在)
事業所	営業拠点48ヶ所、羽田ロジスティックスセンター、関西ロジスティックスセンター、研究開発統括部、戸田ファクトリー、小山ファクトリー、市原ファクトリー、天王洲ACCADEMIA(研修センター)(2023年9月30日 現在)
連結子会社	JLL MALAYSIA SDN. BHD.

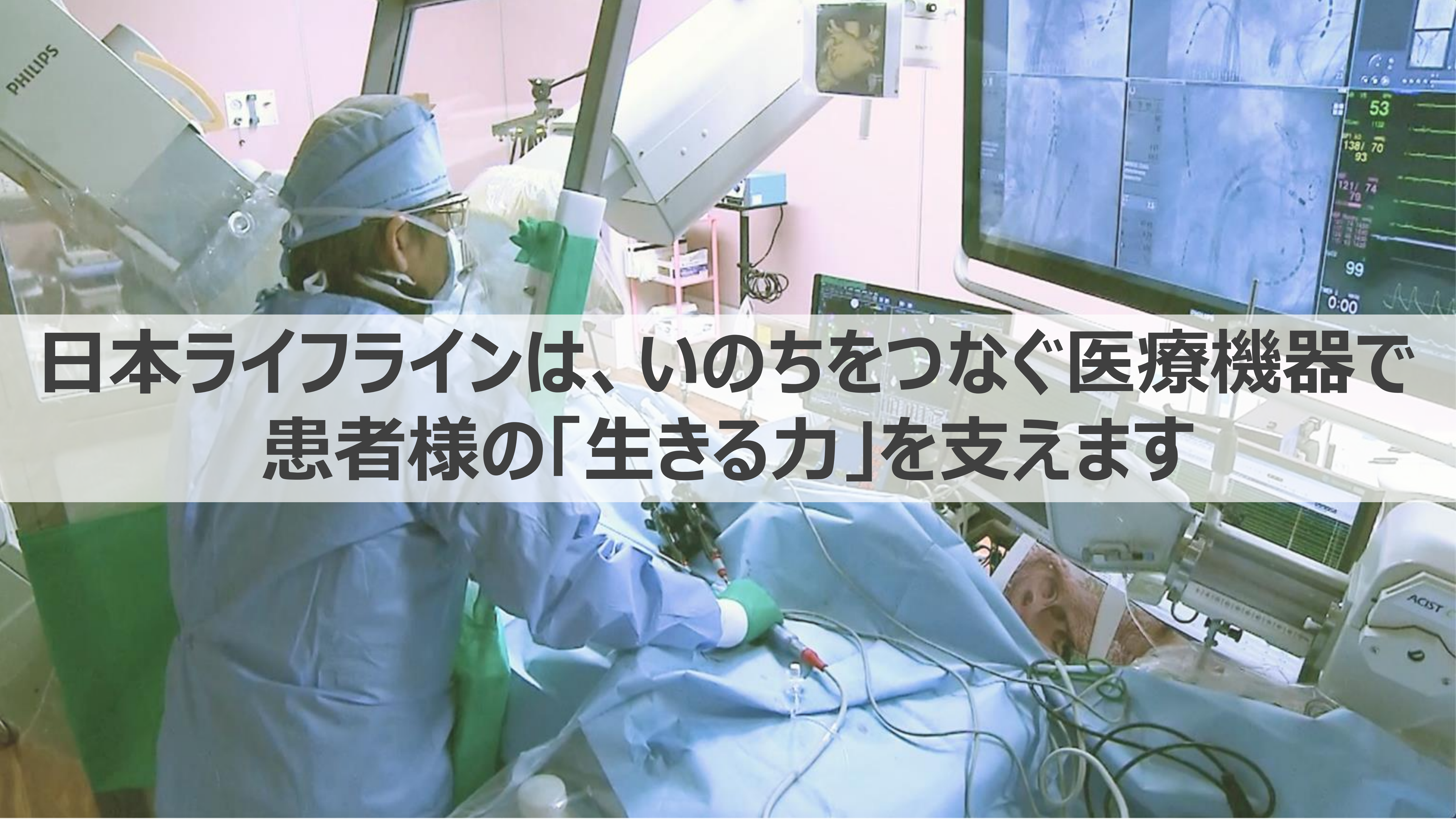
01. 2025年3月期 Q1決算報告

02. 質疑応答

Appendix 1 決算補足資料

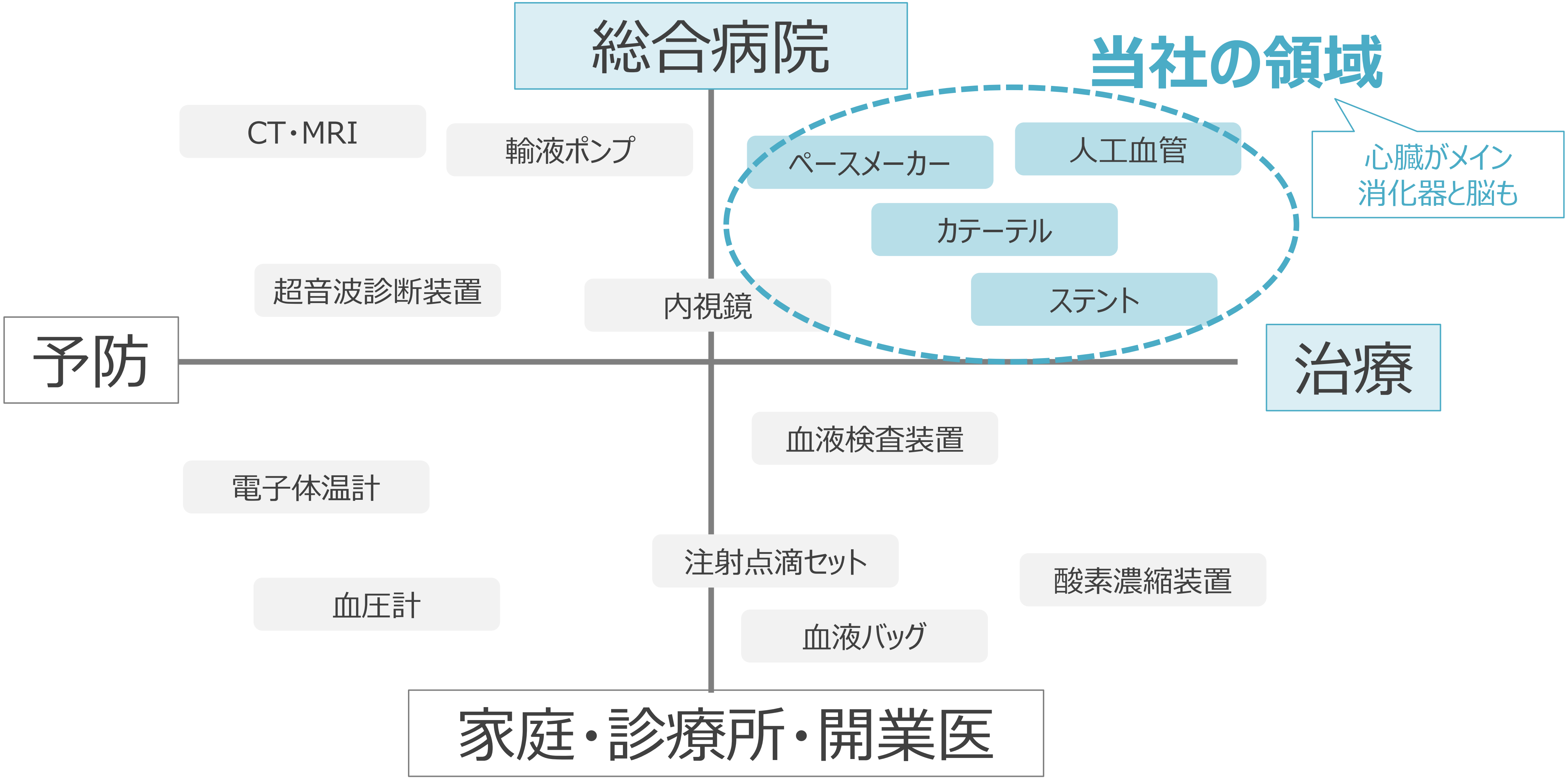
Appendix 2 投資家様向け会社紹介資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ（https://www.jll.co.jp/investors/）からダウンロードできます。


PHILIPS
日本ライフラインは、いのちをつなぐ医療機器で
患者様の「生きる力」を支えます
ACIST

Japan Lifeline

心臓の手術で使われる高機能な医療機器に特化



主な取扱製品のイメージ

心臓関連

ペースメーカー

ICD

電気生理カテーテル

止血デバイス

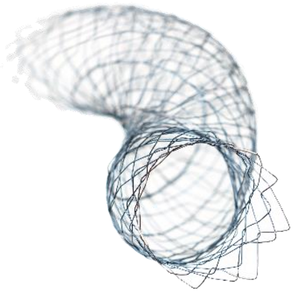
人工血管

脳血管関連

塞栓用コイル

血栓吸引カテーテル

消化器関連


消化管ステント

肝がん治療デバイス

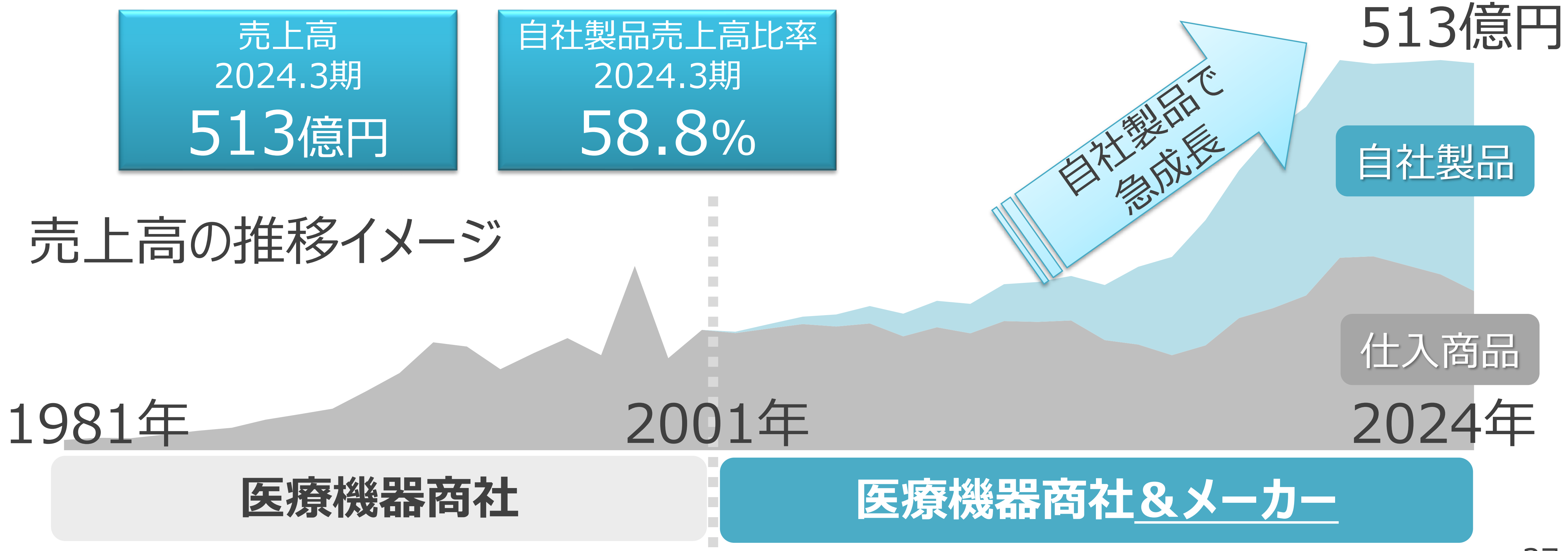
胆管チューブステント

Japan Lifeline

医療機器の輸入商社からメーカーに乗り出す異色の経歴
心臓病の治療ニーズを捉える自社製品で急成長

売上高 2024.3期	自社製品売上高比率 2024.3期
513億円	58.8%

売上高の推移イメージ



Japan Lifeline

A.海外の製品で満たせない**日本独自のニーズ**に応えたい

商社として

“優れた海外の医療を より早く医療現場へ

メーカーとして

“より日本のニーズに合う 使いやすい医療機器を

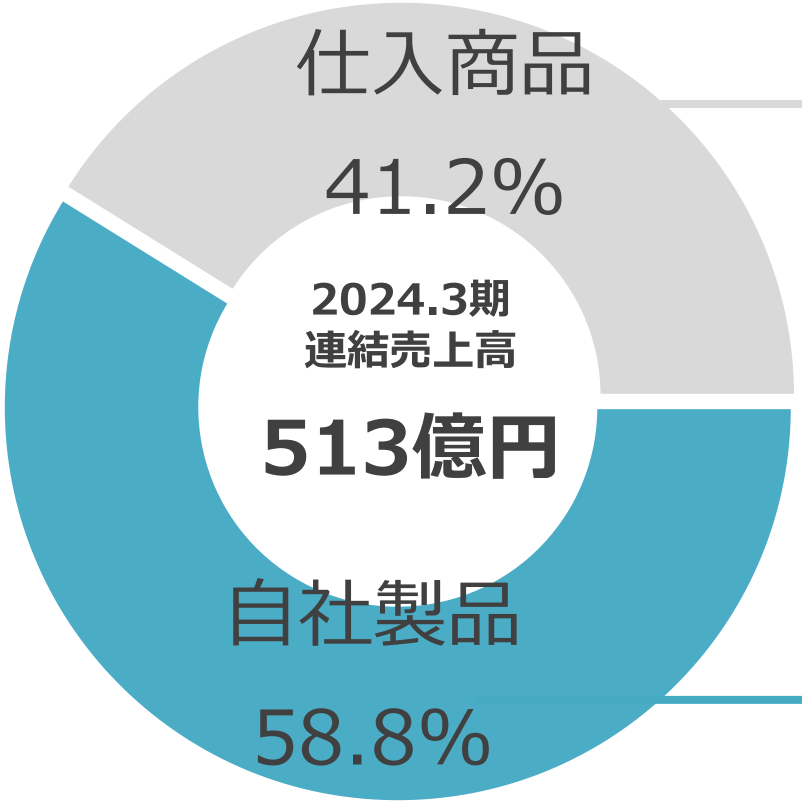
2001年～
メーカー開始

創業者
代表取締役社長　鈴木 啓介

海外の製品は必ずしも
日本人の体格や日本の医療ニーズ
に対応できていないのでは…？？

Japan Lifeline

自社製品・仕入商品ともに高い粗利率
業界でもトップクラスの収益性を確保



仕入商品粗利率
約40%

自社製品粗利率
約70%

売上総利益率
約60%

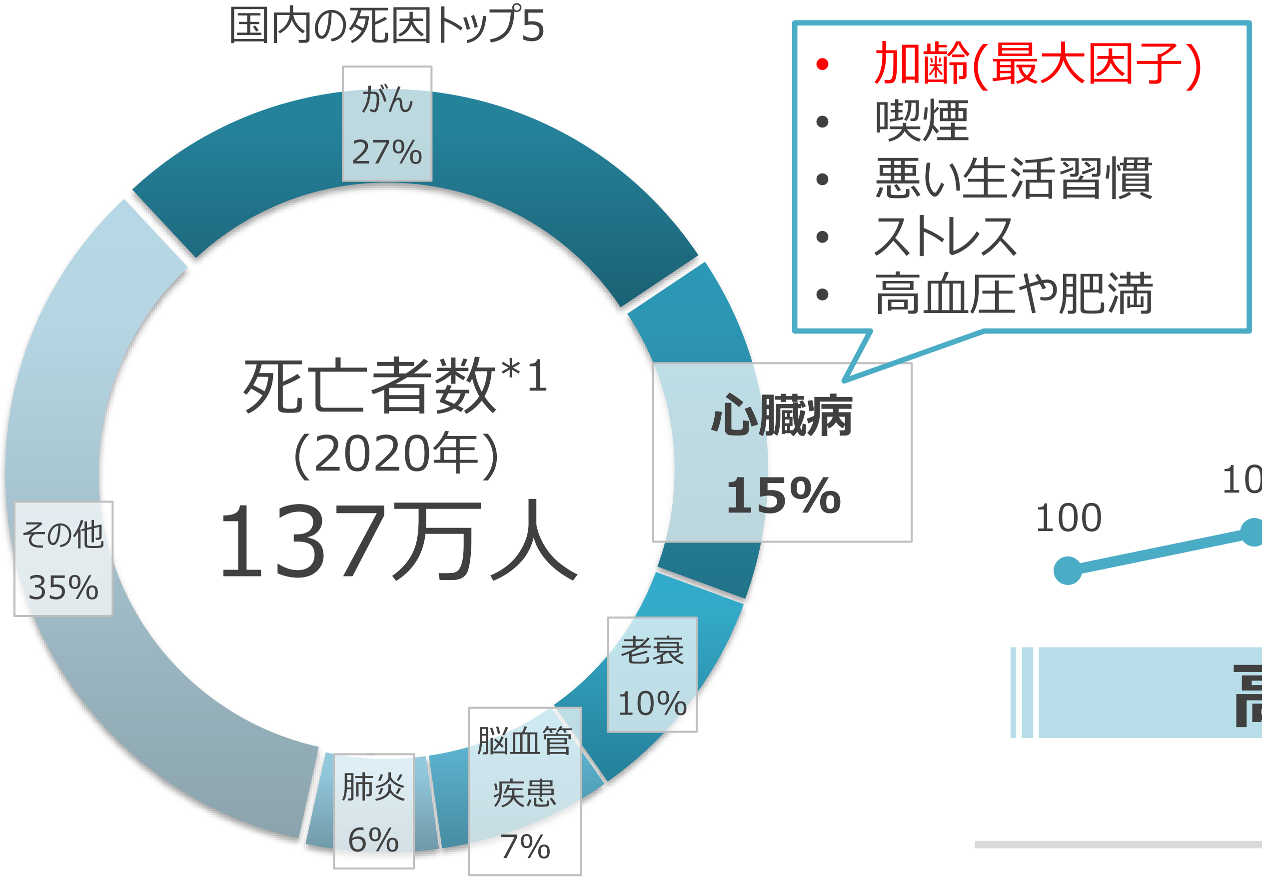
営業利益率
約20%

医療機器が手術で使用されるたびに売上が発生する収益構造
手術数が増えれば、売上が拡大する

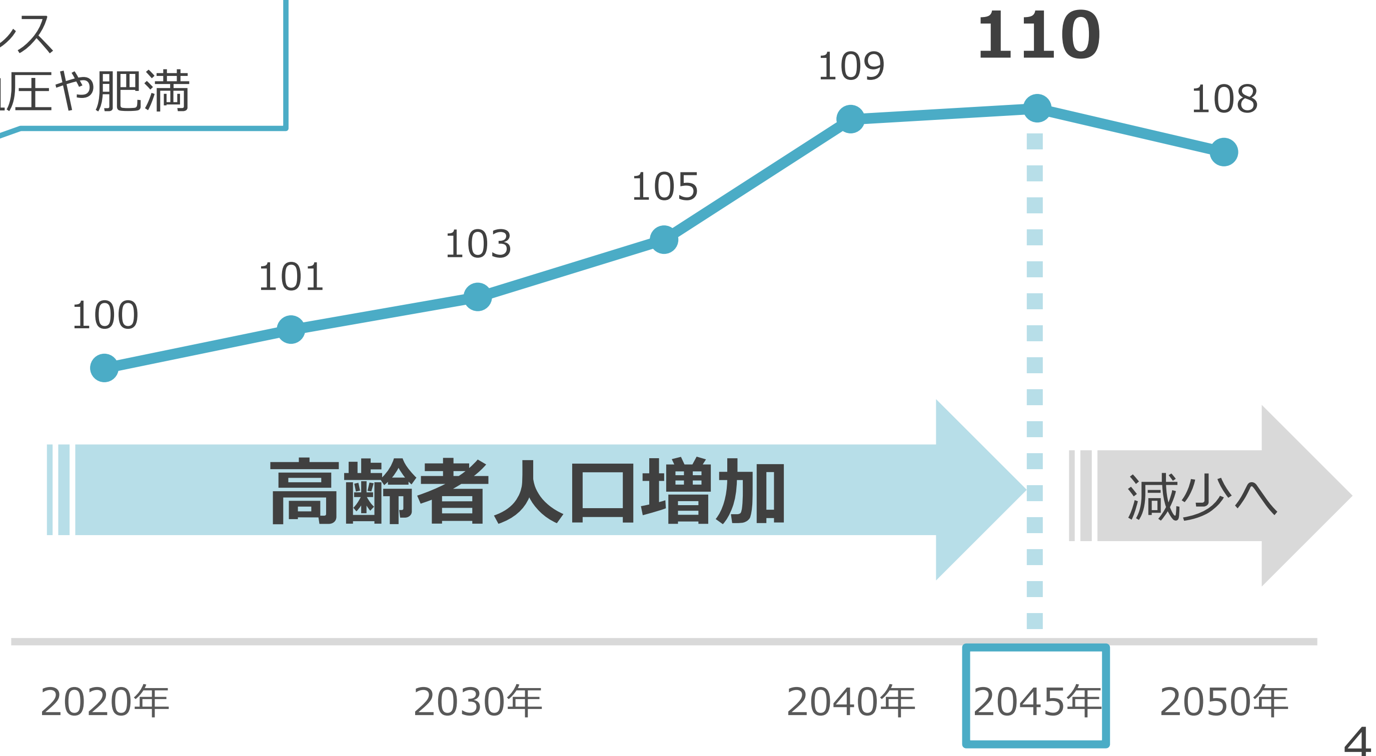
Japan Lifeline

心臓病は加齢が主要因。死因としてはがんの次に多い
高齢者人口は今後も確実に増加し、心臓病患者も増え続ける

国内の死因トップ5



65歳以上人口の推移予測
(2020年＝100として指数化)*2



*1 厚生労働省 令和2年(2020年)人口動態統計
*2 内閣府　令和5年(2023年)版高齢社会白書

加齢や悪い生活習慣により、心臓や血管への負担が蓄積されると、様々な症状が現れる

心臓の病気

- **血管の詰まり**（心筋梗塞）
- **リズムの乱れ**（不整脈）
- **ポンプ機能の低下**（心不全）

当社の得意領域①（リズムの乱れ）

心臓から出ている大きな血管の病気

- **大きな血管の破れ**（大動脈瘤・解離）

当社の得意領域②（大きな血管の破れ）

Japan Lifeline

心臓手術で使われる医療機器で高いシェアを獲得

リズムの乱れ
（不整脈）

EPカテーテル

国内シェア

ICD

国内シェア

大きな血管の破れ
（大動脈瘤・解離）

人工血管

国内シェア

ステントグラフト

国内シェア

当社の得意領域①　不整脈

不整脈の治療では、「**根本治療を目指す手術**」が広く普及

不整脈　主な症状：動悸、息切れ、めまい、不快感、失神など

症状		ソリューション
脈が速すぎる 100回/分以上	▶	根治を目指す手術 **約9万件**/年（2023年）[*1]
脈が遅すぎる 40回/分以下	▶	心臓ペースメーカ 約6万件/年 (2023年)
脈が飛ぶ	▶	多くは経過観察で治療不要

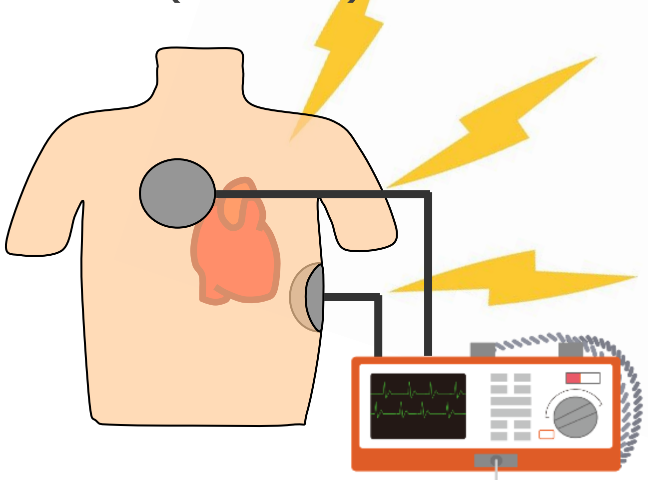
不整脈の手術のイメージ

心臓の中の悪い組織を「焼く」ことで原因を取り除く。
通常、局所麻酔で、所要時間は２～３時間程度
術後、翌々日に退院される方も多い

*1 心房細動のアブレーション症例数。件数は自社調査による

従来型の1/10の電気ショックで患者様の負担を軽減
オンリーワン自社製品として業績のメインドライバーに成長

体の外から電気ショック
(従来型)

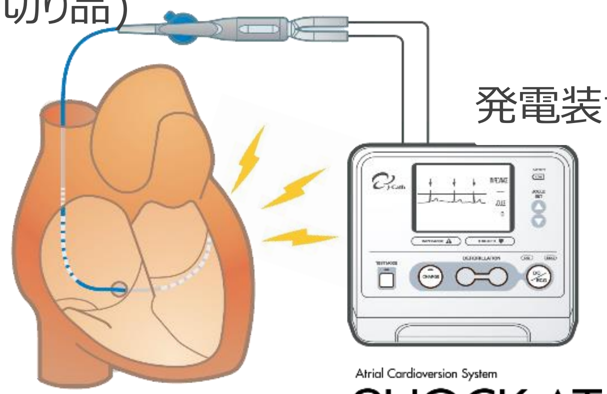


身体を電極パッドで挟み、
強い電気ショックを与える

心臓の中から電気ショック
(当社)

高機能管
(使い切り品)

Catheter for Atrial Cardioversion System SHOCK AT
BeeAT



発電装置

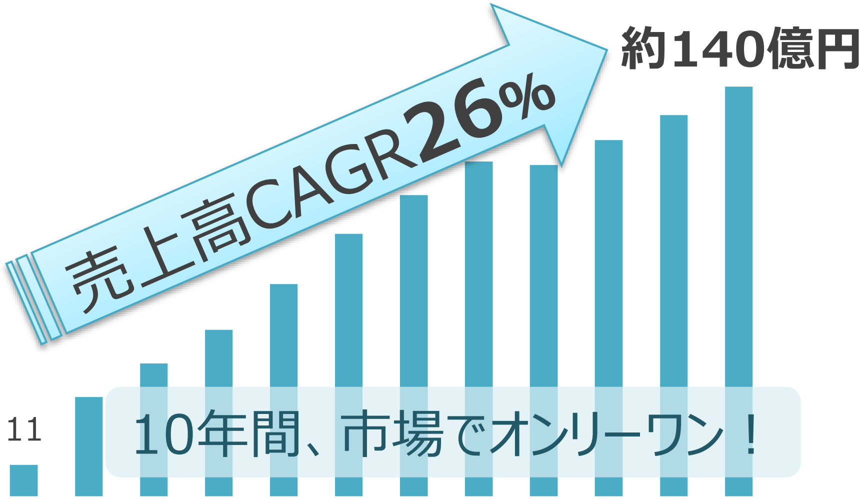
Atrial Cardioversion System
SHOCK AT

従来型の1/10の
弱い電気ショックを与える
(患者様の負担軽減)

手術における
当社の電気ショックシステムの採用率

80%以上

単位：億円



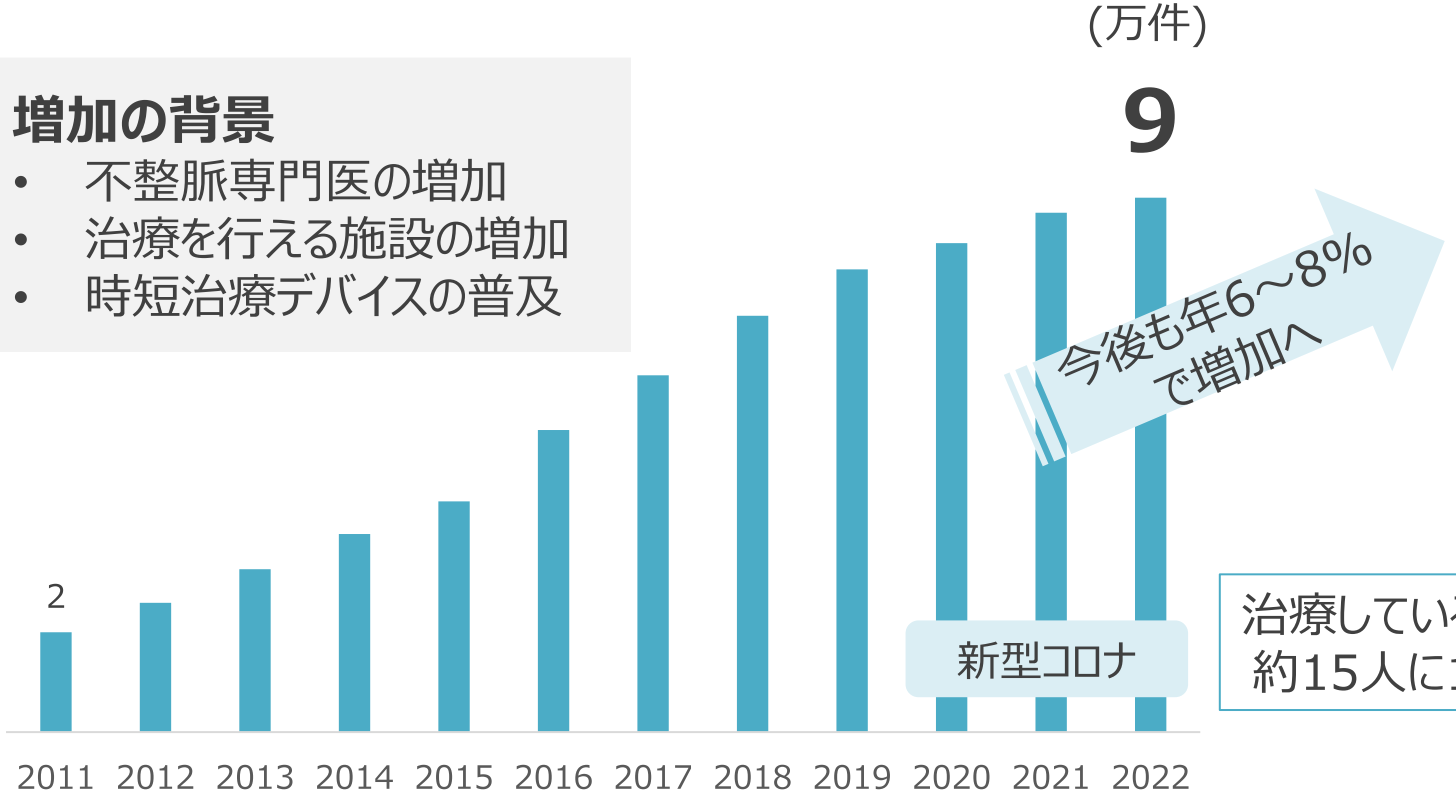
※電気ショックは手術中に発生する不整脈を止めるために行われます

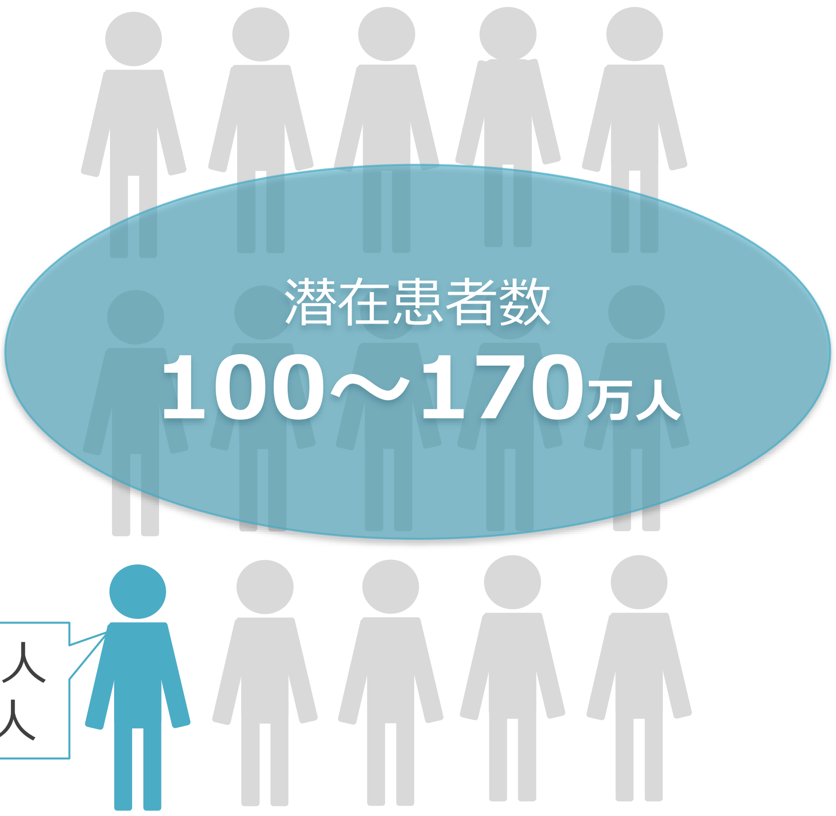
Japan Lifeline

潜在患者数は現状の治療件数の10倍以上
今後も、高齢化の進展で治療件数は増加へ

不整脈の手術件数*1の推移

増加の背景
- 不整脈専門医の増加
- 治療を行える施設の増加
- 時短治療デバイスの普及

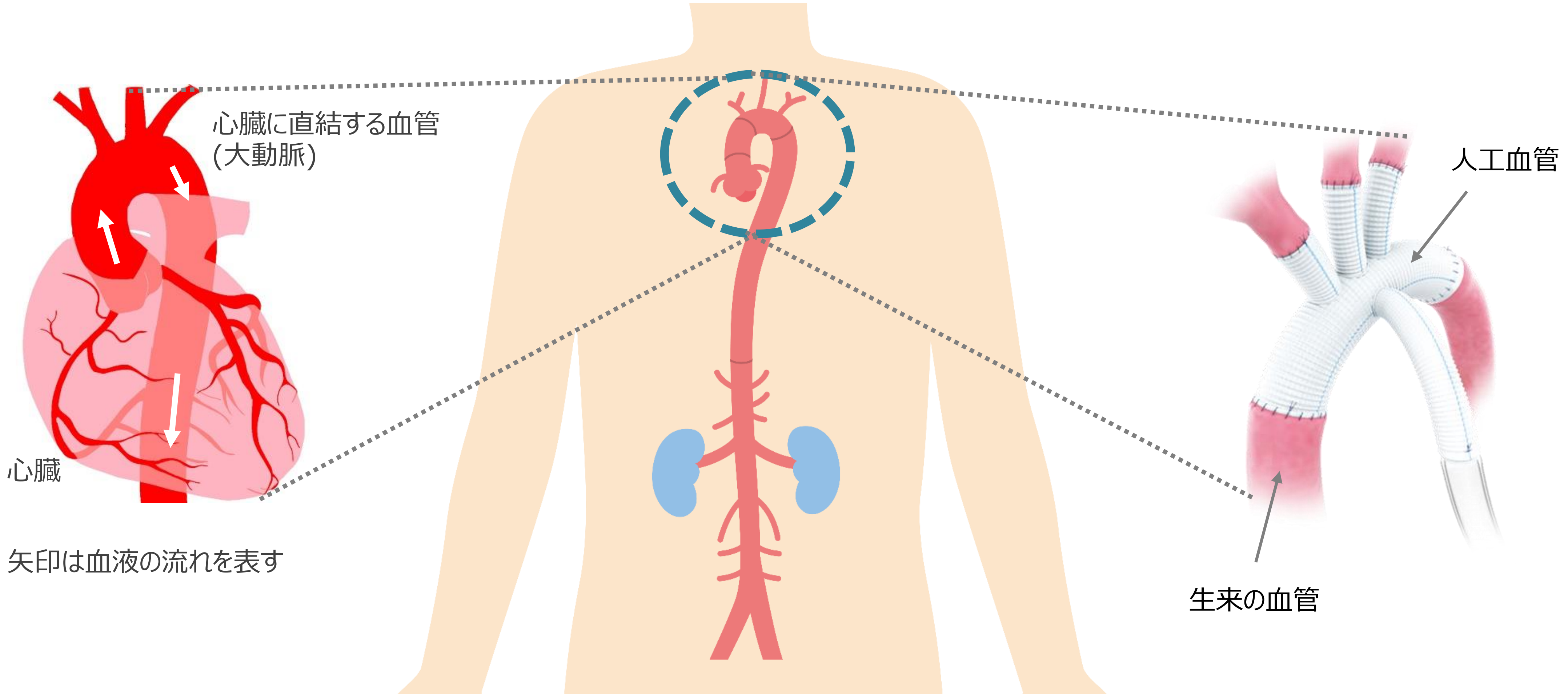




*1 心房細動のアブレーション症例数。件数は自社調査による

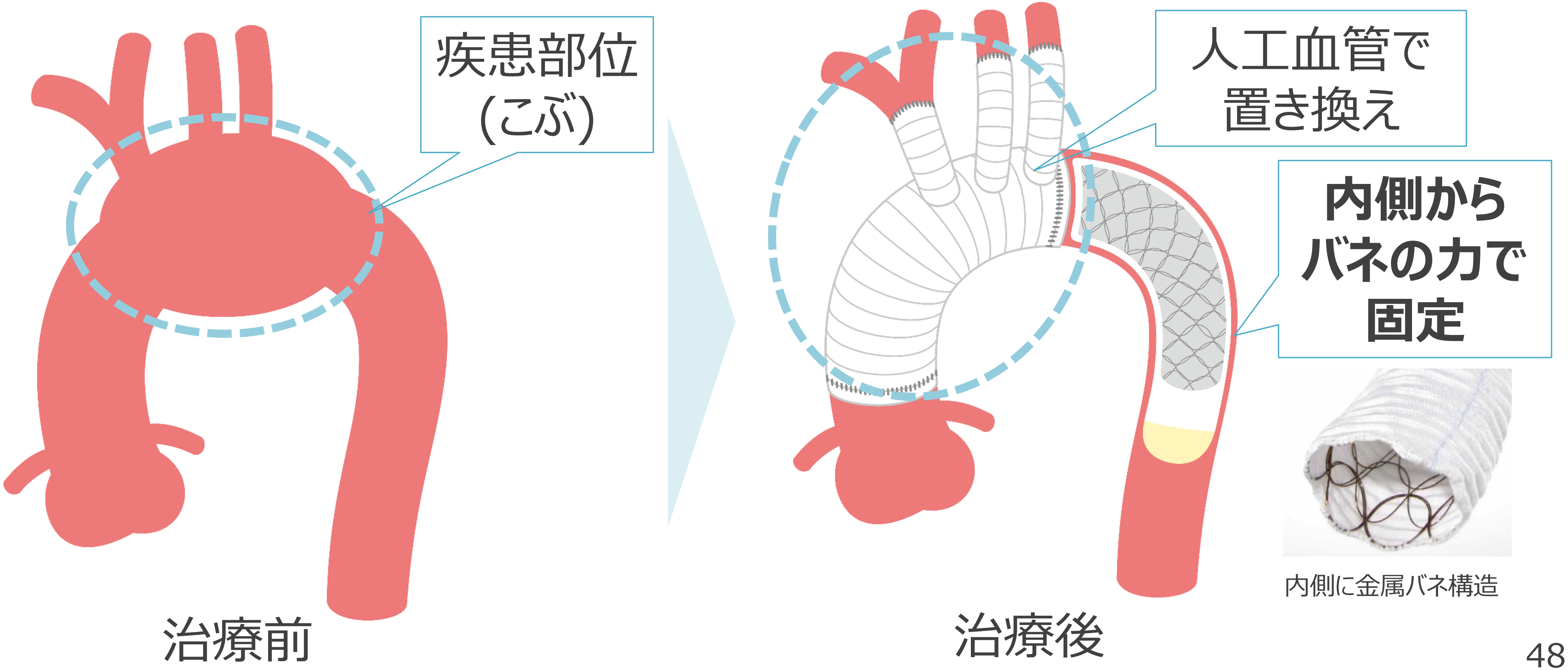
Japan Lifeline

心臓に直結する動脈の「こぶ」や「裂け」は、非常に危険 外科手術では損傷部位を**人工の血管**に置き換えて治療



人工血管に「縫わずにバネの力で固定」する独自の新構造

これまで2回必要だった手術が1回で完結

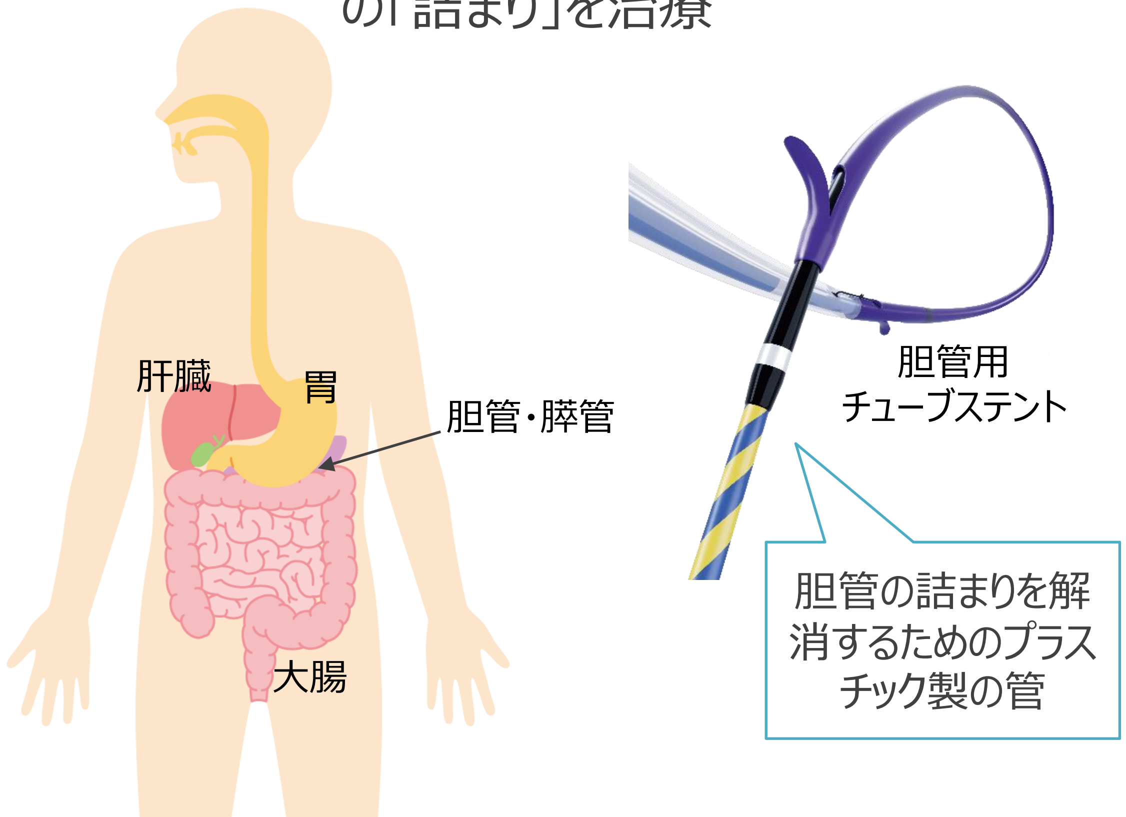


Japan Lifeline

消化器：心臓領域の独自技術を応用して自社製品で参入
脳血管：業界一のラインナップを誇る有力メーカーの商品を独占販売

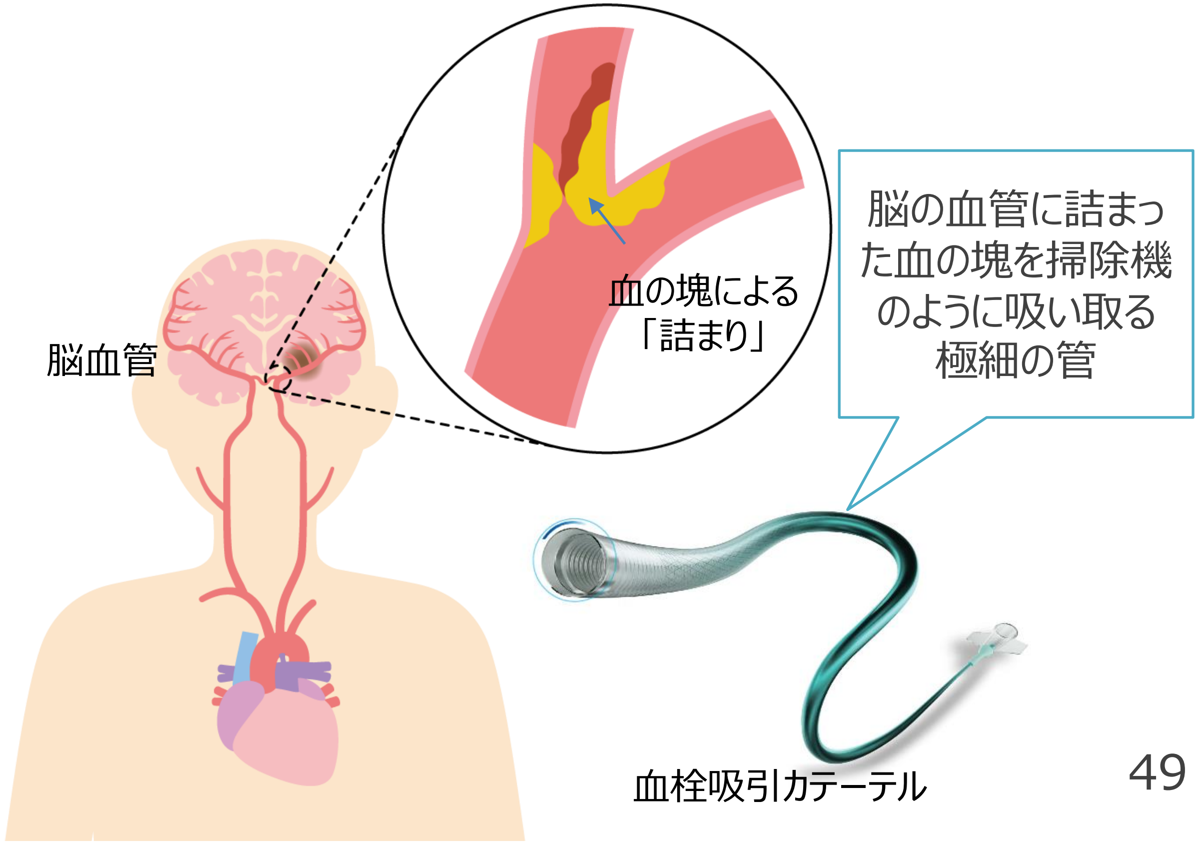
消化器 (2017年～)

消化器官(大腸・胃十二指腸・胆管など)
の「詰まり」を治療



脳血管 (2022年～)

脳の血管の「詰まり」や「こぶ」を治療



Japan Lifeline

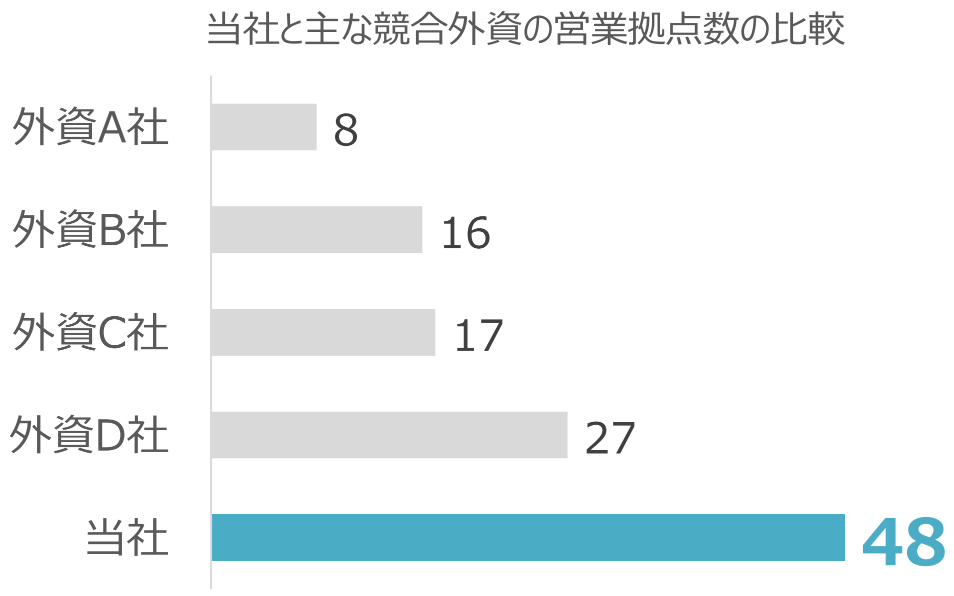
全国に整備した営業体制は業界トップクラス いつでも駆けつける「顔の見える営業」で信頼を獲得

国内営業所
48拠点

不整脈手術施設カバー率*1
96%

国内セールス
約430人

心臓外科手術施設カバー率*2
96%



海外の有力メーカーとの独占販売契約を数多く獲得

*1 国内の不整脈手術(アブレーション実施施設)は約770施設
*2 国内の心臓外科手術施設数は560施設程度(2023年、当社調べ)

Japan Lifeline

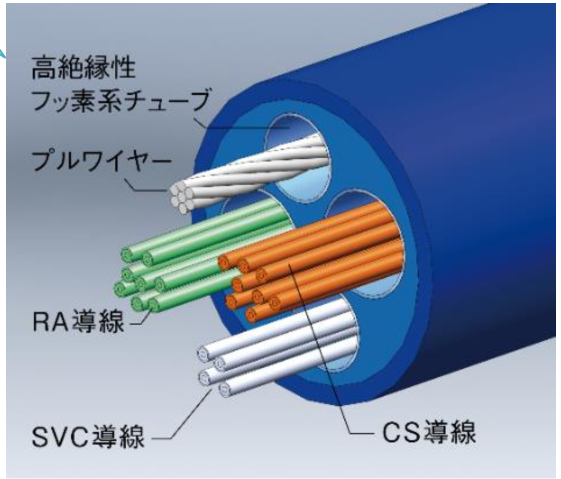
直径2mmの手術用極細管に独自ノウハウを詰め込む
医師にとって日々の手術に欠かせない製品を提供

中に複数のワイヤーを通せることで高機能を付加

血管の中を通って患部に到達する検査や治療用の極細管

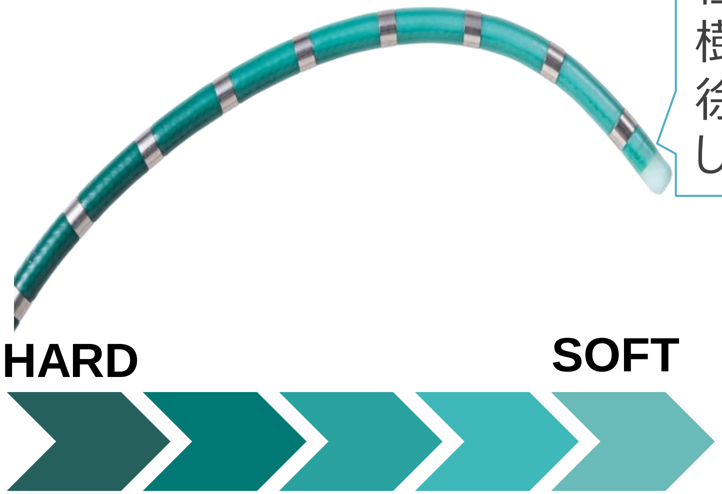
断面図

独自技術①
「れんこん」の形状



独自技術②
なだらかな硬度変化

性質が異なる複数の樹脂を配合比率を徐々に変えながら押し出して成形



高機能で壊れにくく、手になじむ自然な操作感覚

これらの特長を安価に実現できるのは当社だけ

Japan Lifeline

当社の商社機能は海外発の医療機器の国内上市・販売を包括的に請け負う高付加価値型(≠単なる卸売り)

ポジショニングの比較

	当社	他社大手卸
立場	メーカーに準ずる	一次販売代理店
独占販売権	あり	なし
製造販売責任	あり (多くの場合)	なし
在庫負担	あり	なし
売上総利益率 (24.3期)	**約40%** (商社機能のみ)	10%程度

カバーする業務の比較

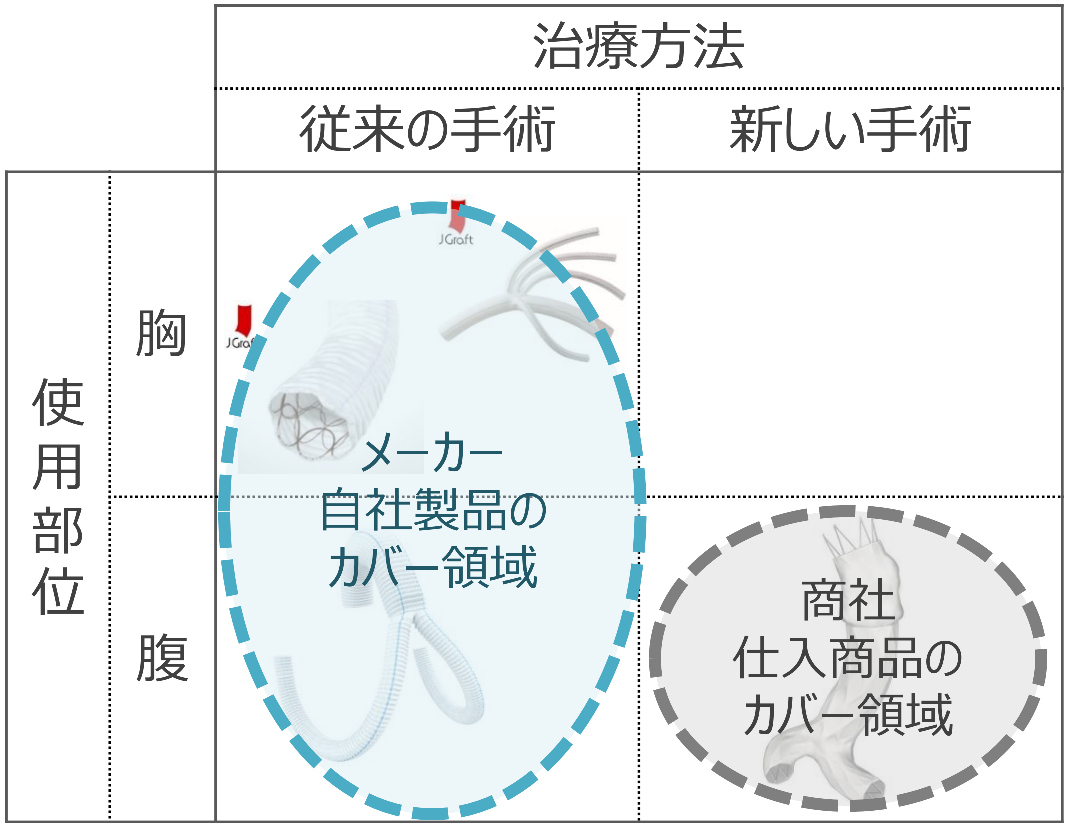
	当社	他社大手卸
市場調査	◎	−
臨床開発	◎	−
薬事申請	◎	−
マーケティング戦略	◎	−
営業	◎	◎
安全・品質管理	◎	○
在庫管理・物流	◎	○
納品・付帯業務	○	◎

◎＝コア業務、○＝ノンコア業務

Japan Lifeline

自社製品でスタンダードな治療パターンを押さえつつ、仕入商品で最先端領域も戦略的にカバー

大動脈の治療の例～



メーカー：差別化された自社製品でベーシックなニーズに高い水準で応える

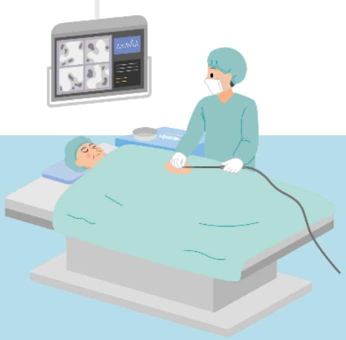
×

商社：海外の最先端テクノロジーを素早く導入して長期独占販売

＝

組み合わせによって他社に真似できないプロダクト・ポートフォリオを構築

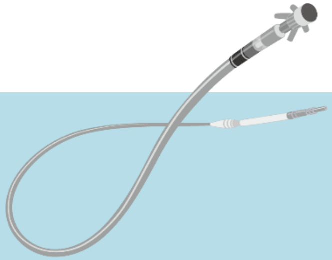
取扱い品のほとんどが手術に必須な高付加価値の使い切り品
手術件数が増えるほどキャッシュを獲得



手術件数

- 「置き薬」や「百貨店」と同じで、毎回の手術における使用で課金
- 高齢化で件数は増加

×



単価

- 高リスクな手術で用いられる単回使用の高付加価値品

継続的な営業キャッシュフロー

高い参入障壁
(高度医療のノウハウ・全国販売網)

Japan Lifeline

世界中で高齢化が進行。堅調な市場成長を見込む

グローバル

4,000億ドル

(約60兆円*1)

CAGR 6 %

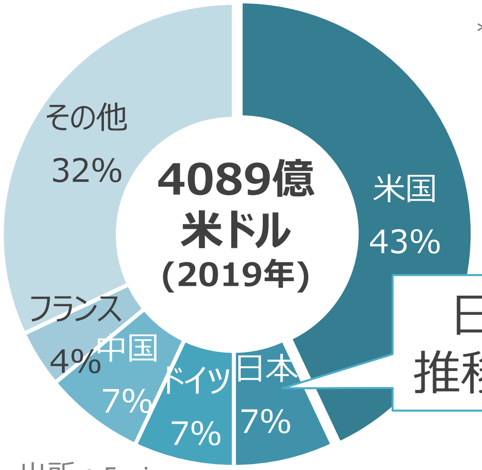
国内

4～5兆円

CAGR 3～4 %

グローバル医療機器市場の内訳

*1 1USD＝150円換算

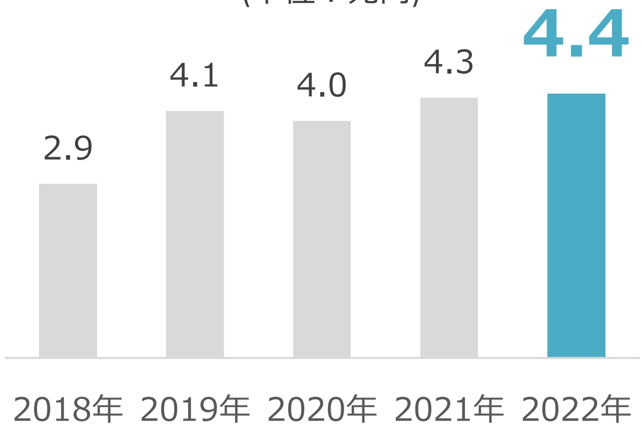


日本は2～3位で推移する重要な市場

出所：Espicom

国内医療機器市場規模の推移

(単位：兆円)



出所：厚生労働省 薬事工業生産動態統計年報

心臓関連に軸足を置きつつ、成長市場の脳・消化器を開拓

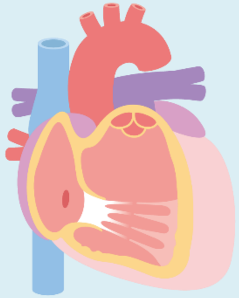
国内市場規模
約4~5兆円

体温計や注射針からMRIや人工インプラント臓器まで
4,000分類、30万品目以上の**非常に細分化された市場**

当社が関連する市場 約5,000億円

～現有の製品群で約6割(3,000億円)をカバー～

心臓

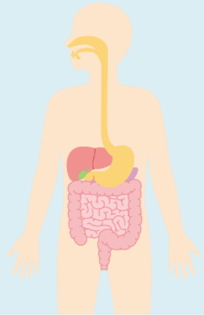


約4,000億円
巨大な安定市場

脳

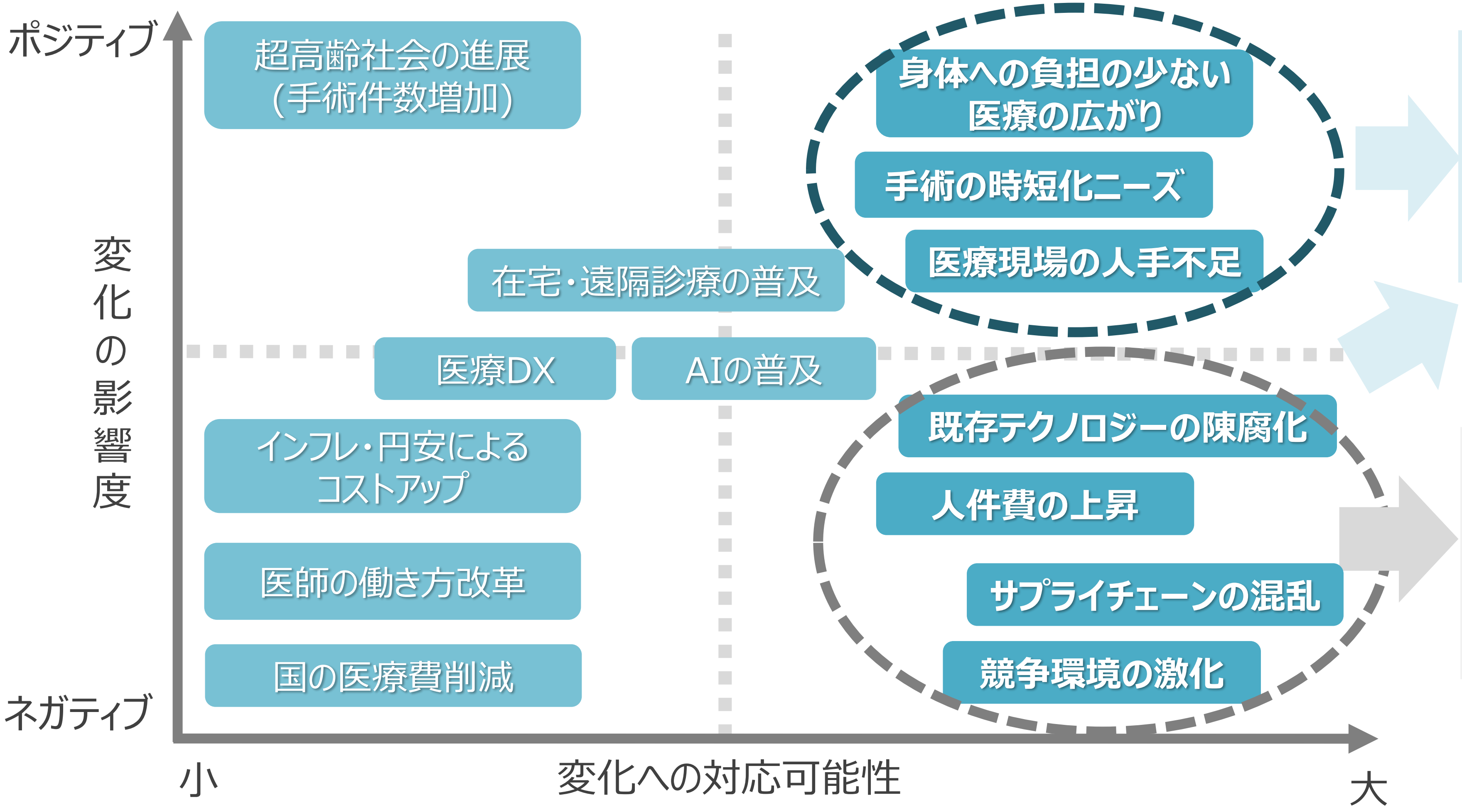
約400億円
高成長(年8%)

消化器



約600億円
安定成長

当面は**コア自社製品の競争力維持**が最も重要と認識
そのうえで、**次世代の変化を見極めた投資**を継続



攻め

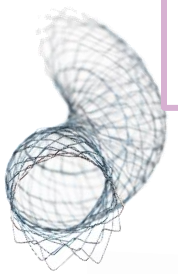
- **研究開発投資の加速**
- M&Aや他社との戦略的連携
- 医療課題の解決にフォーカス

守り

- **コア自社製品の競争力維持**
- 原価低減、販売効率向上
- 事業基盤強化

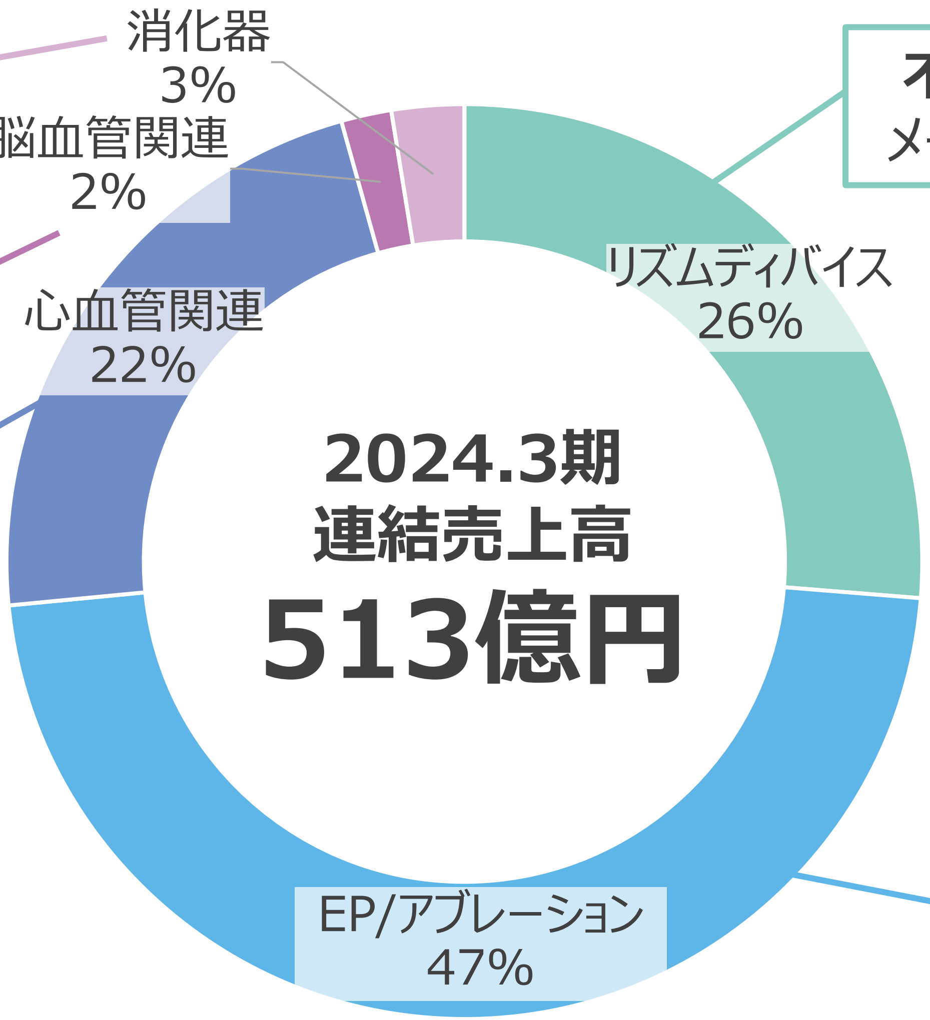
専門性が高い**心臓領域に特化**

消化器の詰まりを解消するステントなど



脳血管の詰まりを解消する管など

大動脈の外科手術で使われる人工臓器など

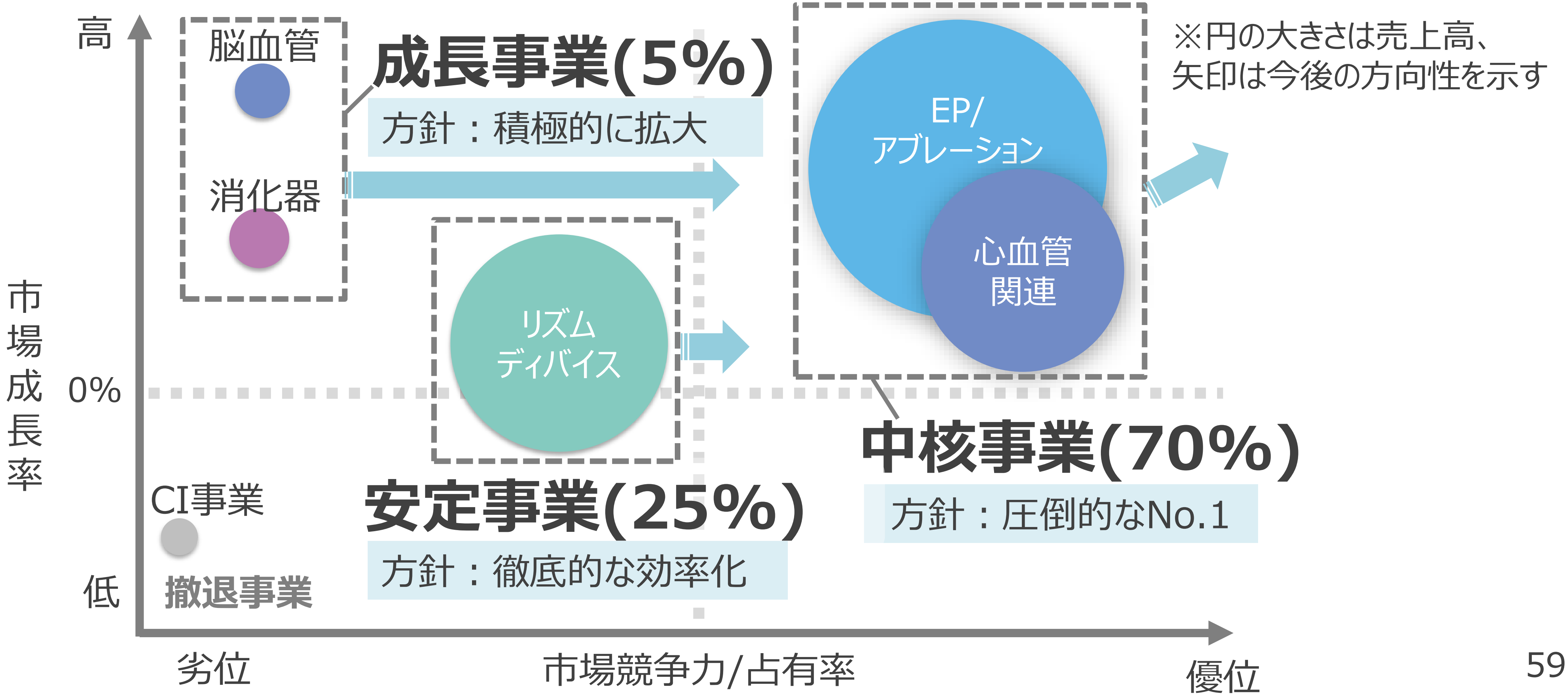


不整脈を治療する心臓ペースメーカなどの体内植込み型機器

不整脈手術で使われる極細の医療用管など

Japan Lifeline

現状、成長余力の高い事業が7割を占める
今後、成長性の高い市場でのプレゼンス向上も図る



Japan Lifeline

着実な事業成長と魅力的なリターンの両立を目指す

着実な事業成長			魅力的なリターン	
売上高	新領域売上高	営業利益率	EPS	ROIC
630億円	**80億円**	**20%水準**	**120円**	**12%**
(2028.3期)	(2028.3期)	(毎期)	(2028.3期)	(2028.3期)

①新領域の拡大

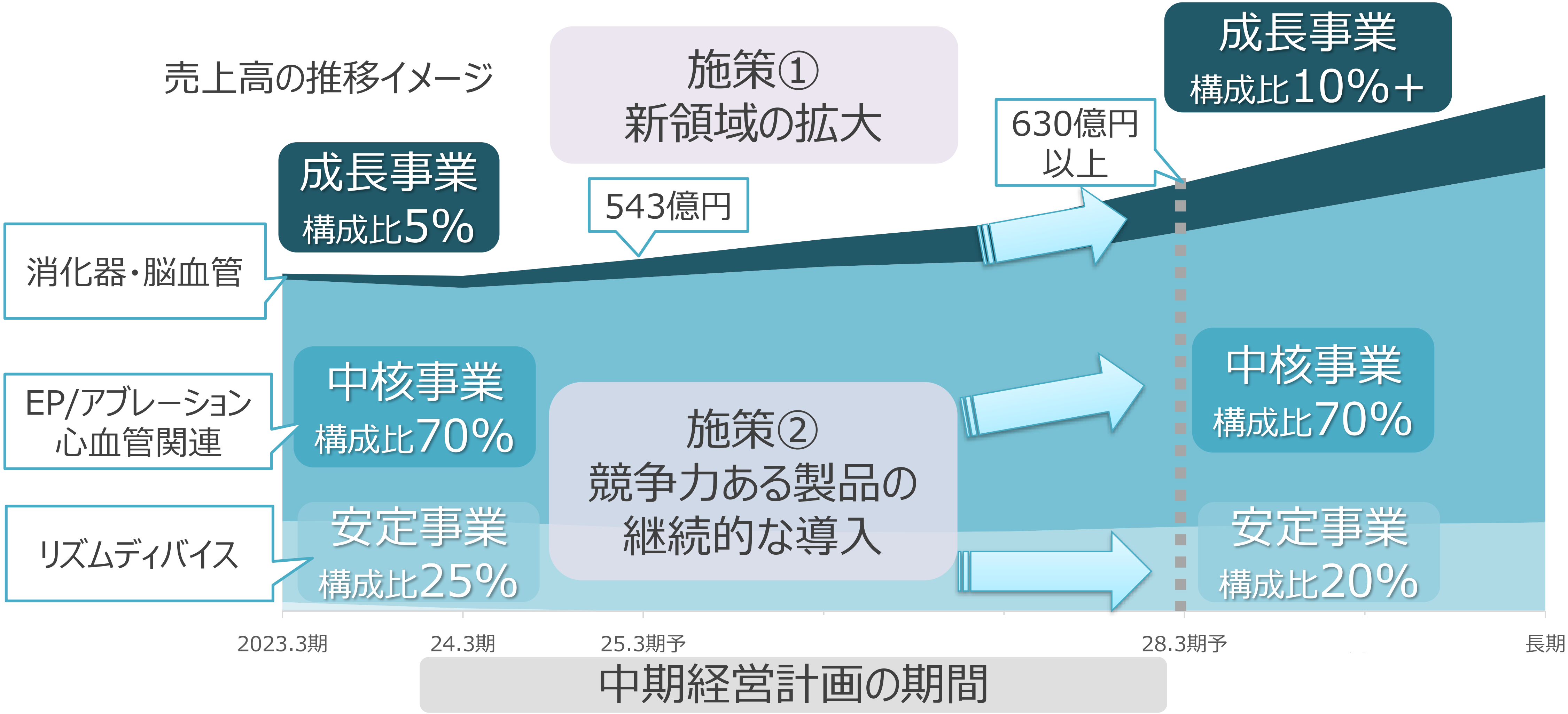
②競争力ある製品の継続的導入

③資本効率を意識した経営の強化

3つの重点施策

Japan Lifeline

中核事業を継続的な製品導入で強化しつつ、消化器・脳血管の成長事業もしっかり成長軌道に乗せる



機動的な成長投資の資金を常に確保しつつ、リターン(ROIC)と資本コスト(8%)を意識した資本配分を行う

余剰キャッシュ

新規投資のための待機資金枠 — 数十億円程度

財務安全性を確保するために必須なキャッシュ — 100億円程度*1

余剰キャッシュは、次の順番で使途を検討

①事業用資産の取得

②成長投資・設備投資

③配当(ベース)

④M＆A

⑤配当(上乗せ)/自己株式の取得

⑥現預金として保有

*1 2024.3時点での目安であり、今後の事業環境の変化によって変動します

キャッシュの見通しと足元の投資案件の状況から中期の方針として株主還元を大幅に強化

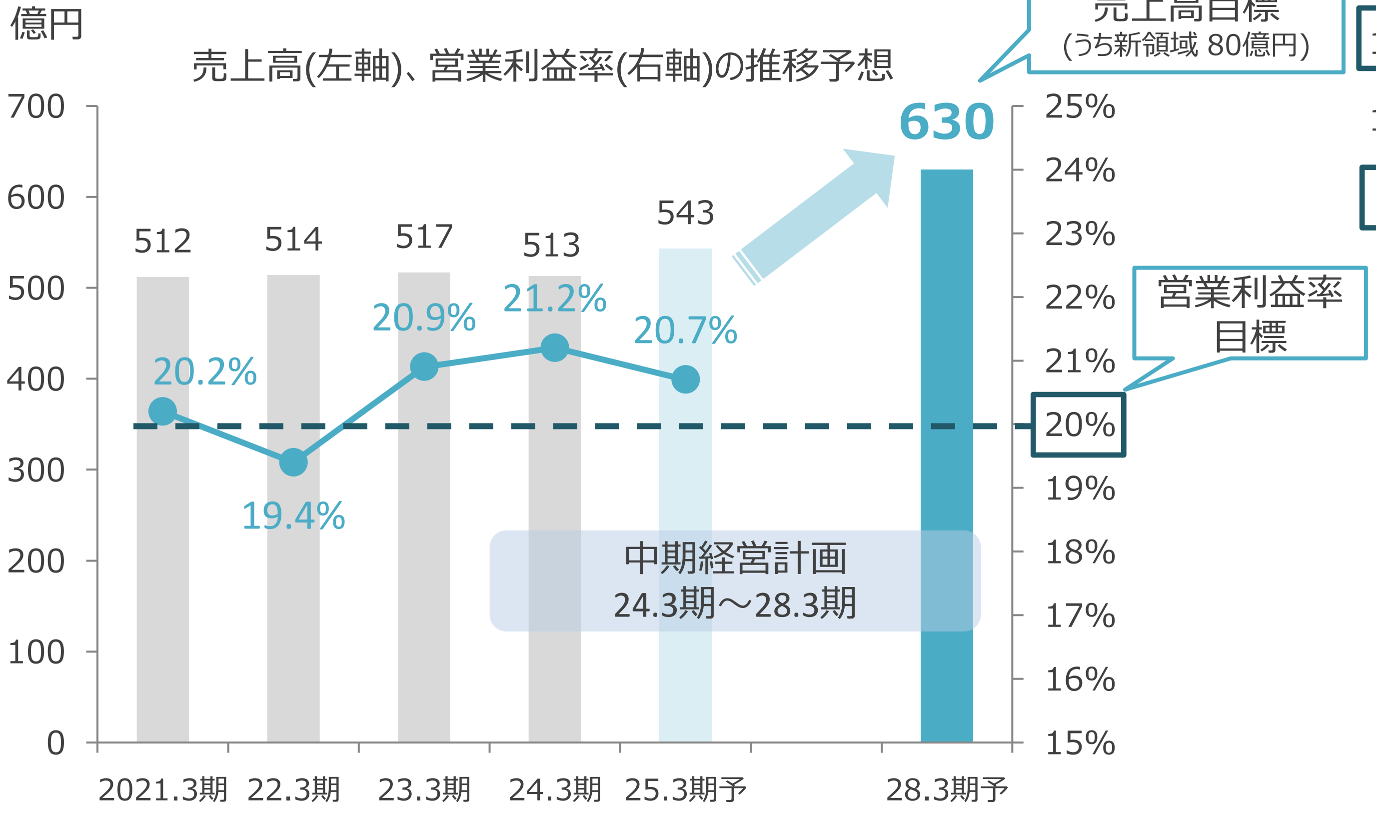
配当(上乗せ) 自己株式の取得	• 業績・株価動向・KPIの状況を踏まえ、追加の還元策を検討 • 自己株式の取得後、使途が見込まれるものを除き、発行済総数の1%を超える部分を消却
配当(ベース)	• 配当性向40%またはDOE5%(いずれか高い方)

2024.3期～2028.3期の5年間の還元総額として、**250億円**程度を想定

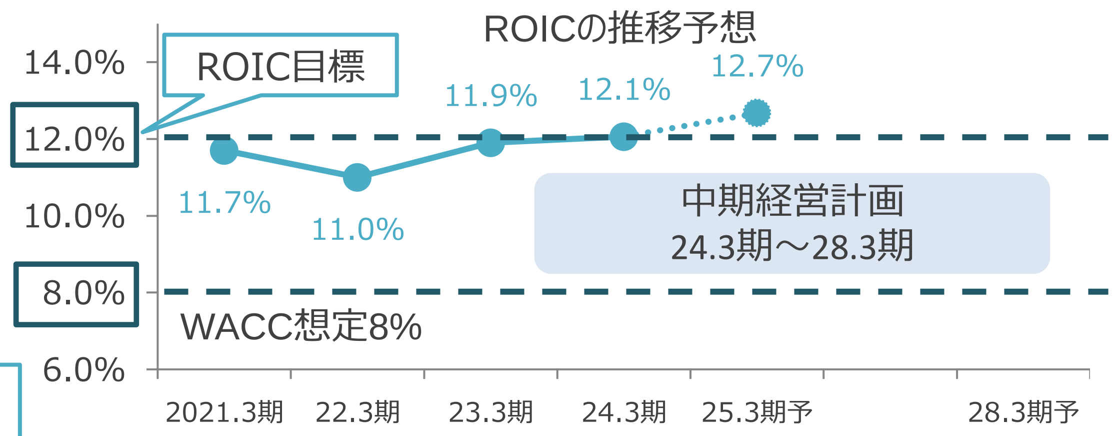
「着実な事業成長」と「魅力的なリターン」を両立するためのKPIを設定

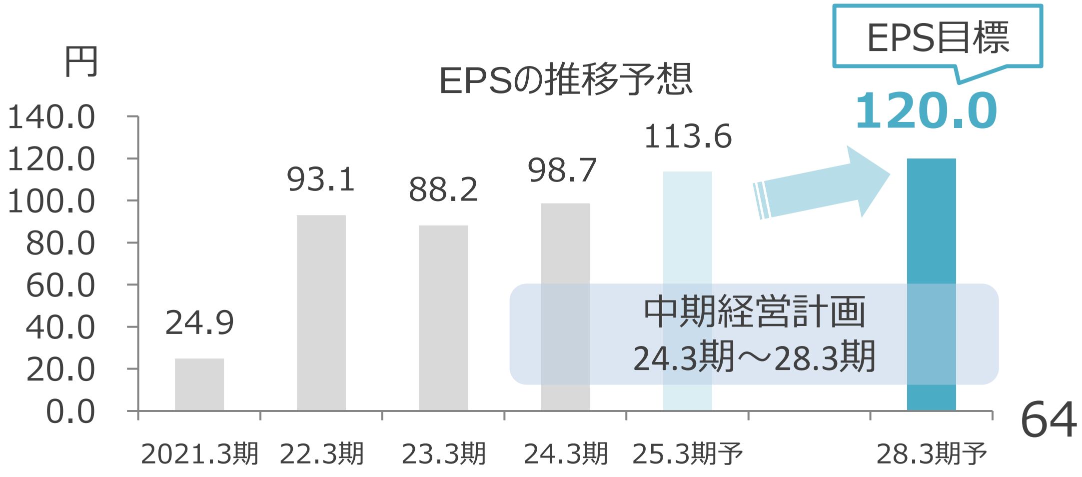
施策① 新領域の拡大

施策② 競争力ある製品の継続的な導入



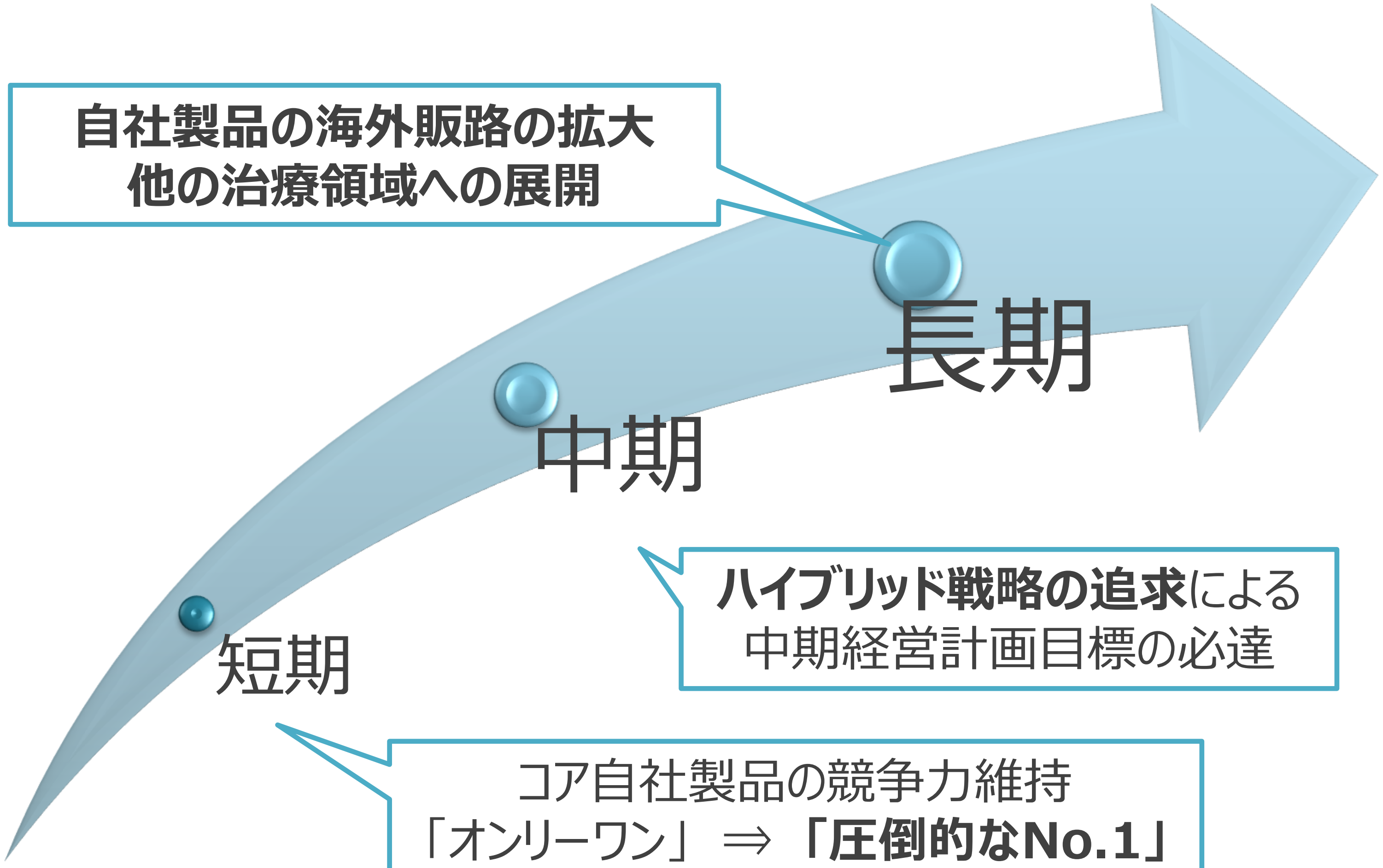
施策③ 資本効率を意識した経営の強化





Japan Lifeline

メーカー・商社のハイブリッド戦略は堅持
自社製品の海外販路拡大は長期の課題として取り組む



自社製品の海外販路の拡大
他の治療領域への展開

ハイブリッド戦略の追求による
中期経営計画目標の必達

コア自社製品の競争力維持
「オンリーワン」 ⇒ **「圧倒的なNo.1」**

長期的に目指す
自社製品比率
65～70%

売上総利益率 60%＋
営業利益率 20～25%

… for Patient Comfort

生きる力を支えるために

ご注意事項

本資料に記載されている内容の中で、歴史的事実ではないものは、当社の将来に対する予測です。特に、新商品や製品の導入、治験、薬事承認、そして発売時期については、過去の経験や利用可能な情報に基づいて当社が予測しています。しかし、様々な要因により、実際の業績は本資料で述べられている見通しと異なる可能性があります。そのため、これらの見通しに過度に依存しないでください。また、本資料には未承認の製品に関する情報が含まれている場合があります。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部
TEL:03-6711-5214
E-Mail:ir@jll.co.jp
URL:https://www.jll.co.jp